

第3章 一般高齢者調査の結果

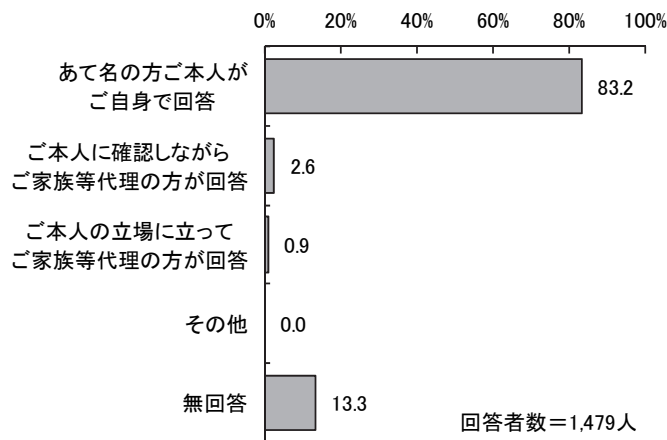
I 回答者の属性

1 調査の回答者

問1 この調査票はどなたが回答されますか。(1つに○)

調査の回答者は、「あて名の方ご本人がご自身で回答」が83.2%を占めている。

図表3-1 調査の回答者

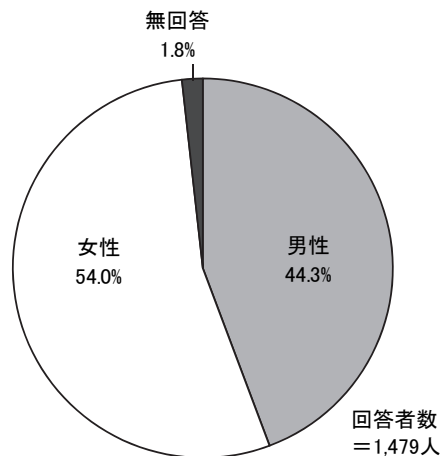


2 性別と年齢

問2 あなた(あて名のご本人)の性別と、平成25年9月1日現在の満年齢をお答えください。

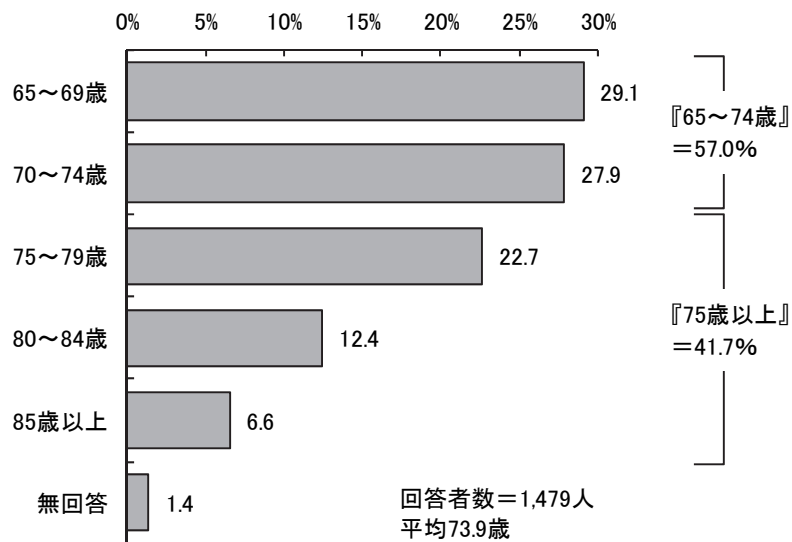
性別は、「男性」44.3%、「女性」54.0%と、「女性」が「男性」を9.7ポイント上回っている。

図表3-2 性別



年齢は、「65～69歳」29.1%、「70～74歳」27.9%、「75～79歳」22.7%の順であり、65～74歳が57.0%、75歳以上が41.7%を占め、平均73.9歳となっている。

図表3-3 年齢



性別にみると、女性は男性に比べて年齢層の高い人の割合が高く、平均年齢は男性73.3歳、女性は74.3歳となっている。

居住地域別にみると、年齢分布に特に顕著な差はみられない。

図表3-4 年齢

		回答者数(人)	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 歳 以上	無 回 答	『65 ～ 74 歳』	『75 歳 以上』	平均 年 齢
全 体		1,479	29.1	27.9	22.7	12.4	6.6	1.4	57.0	41.7	73.9
性 別	男性	655	32.5	29.0	20.6	11.0	5.8	1.1	61.5	37.4	73.3
	女性	798	26.7	27.3	24.4	13.8	7.4	0.4	54.0	45.6	74.3
居 住 地 域 別	谷中地区	137	29.2	27.7	21.2	13.9	5.8	2.2	56.9	40.9	74.0
	台東地区	211	29.9	25.6	22.7	13.3	8.1	0.5	55.5	44.1	74.1
	蔵前地区	237	28.7	29.5	21.9	12.2	7.2	0.4	58.2	41.3	73.9
	浅草地区	234	28.2	31.2	21.8	12.0	5.1	1.7	59.4	38.9	73.7
	三ノ輪地区	203	31.0	26.6	23.6	12.8	4.9	1.0	57.6	41.3	73.5
	松が谷地区	254	29.5	28.3	23.2	11.8	7.1	0.0	57.8	42.1	73.8
	清川地区	179	29.6	27.9	24.0	11.7	6.7	0.0	57.5	42.4	73.7

※ 『65～74歳』 = 「65～69歳」 + 「70～74歳」

※ 『75歳以上』 = 「75～79歳」 + 「80～84歳」 + 「85歳以上」

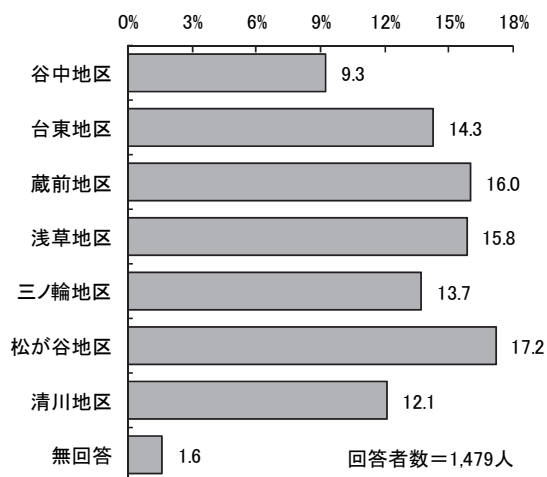
※ 居住地域は4ページの「居住地域区分」を参照。

3 居住地域

問3 お住まいはどこですか。記入例を参考に記入してください。丁目がない場合は、町名だけ記入してください。

居住地域は、「松が谷地区」が17.2%ともっとも高く、「谷中地区」が9.3%ともっとも低くなっている。

図表3-5 居住地域



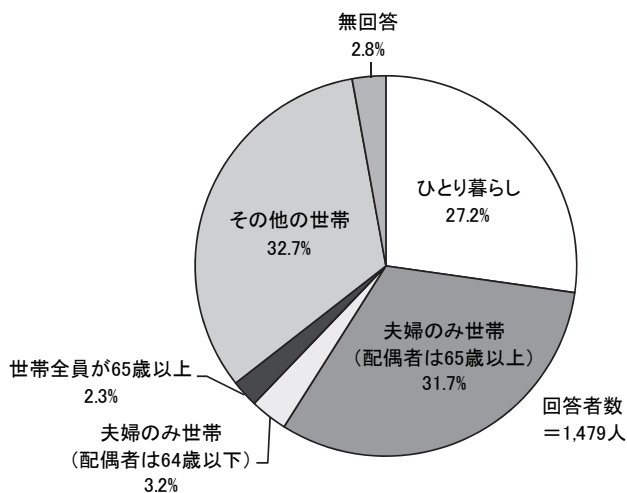
※ 居住地域は4ページの「居住地域区分」を参照。以下同じ。

4 家族構成

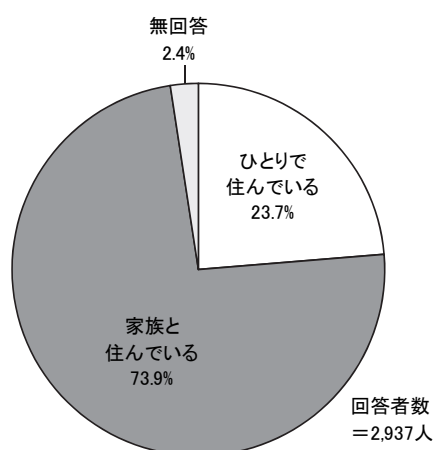
問4 あなたのご家族の構成は、次のうち、どれにあてはまりますか。(1つに○)

家族構成は、子ども等との同居世帯等である「その他の世帯」32.7%がもっとも高い。次いで「夫婦のみ世帯（配偶者は65歳以上）」31.7%、「ひとり暮らし」27.2%の順であり、これに「世帯全員が65歳以上」2.3%をあわせた61.2%が“高齢者のみの世帯”となっている。

図表3-6 家族構成



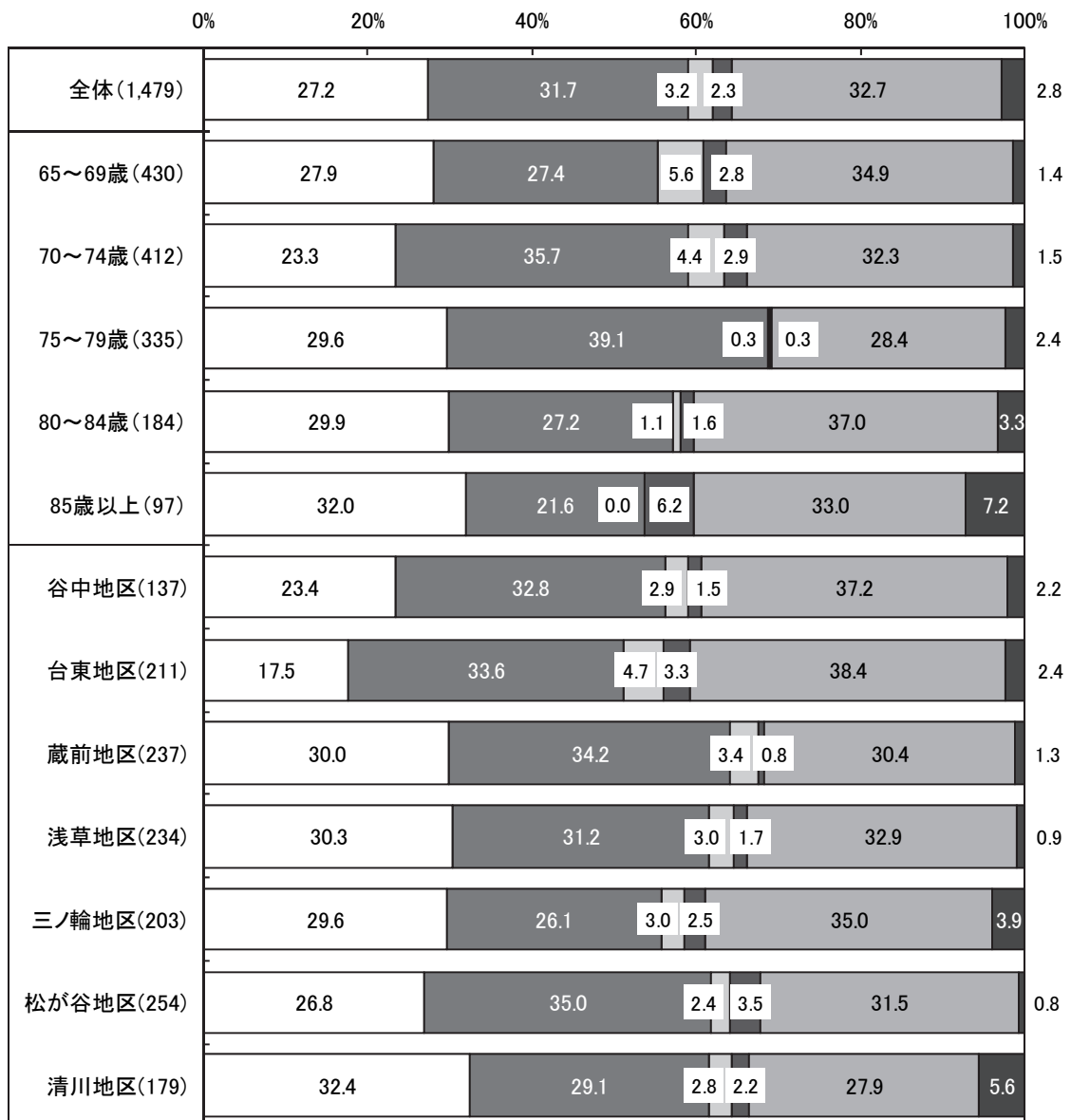
<前回調査>



年齢別にみると、70～79歳は「夫婦のみ世帯（配偶者は65歳以上）」が35%を超え、もっとも高い割合を占めている。また、85歳以上では「ひとり暮らし」が32.0%であり、他の年齢層に比べて高い割合となっている。

居住地域別にみると、谷中地区、台東地区、浅草地区及び三ノ輪地区は「その他の世帯」、蔵前地区及び松が谷地区は「夫婦のみ世帯（配偶者は65歳以上）」、清川地区は「ひとり暮らし」が、それぞれもっとも高い割合を占めている。

図表3-7 家族構成



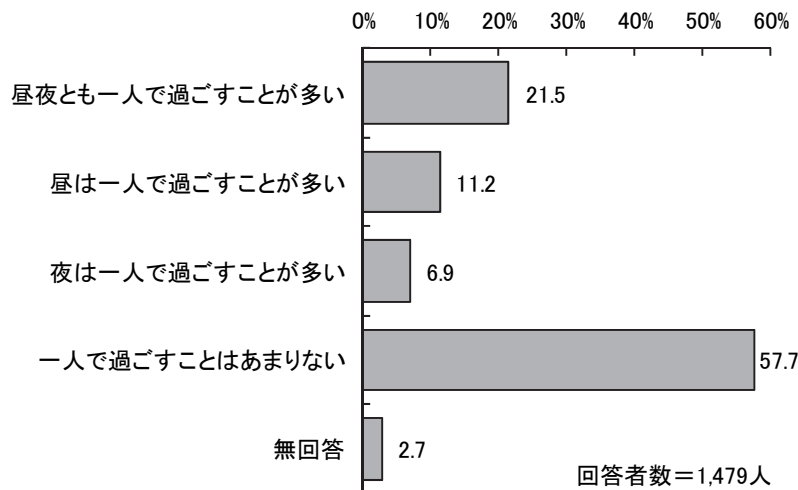
()内は 回答者数
 □ひとり暮らし
 ■夫婦のみ世帯 (配偶者は65歳以上)
 □夫婦のみ世帯 (配偶者は64歳以下)
 ■世帯全員が65歳以上
 □その他の世帯
 ■無回答

5 日中・夜間の独居状況

問5 1日の中で、一人になることがありますか。(1つに○)

日中・夜間の独居状況を見ると、「一人で過ごすことはあまりない」と回答した人が57.7%ともっとも高く、次いで「昼夜とも一人で過ごすことが多い」21.5%、「昼は一人で過ごすことが多い」11.2%、「夜は一人で過ごすことが多い」6.9%となっている。

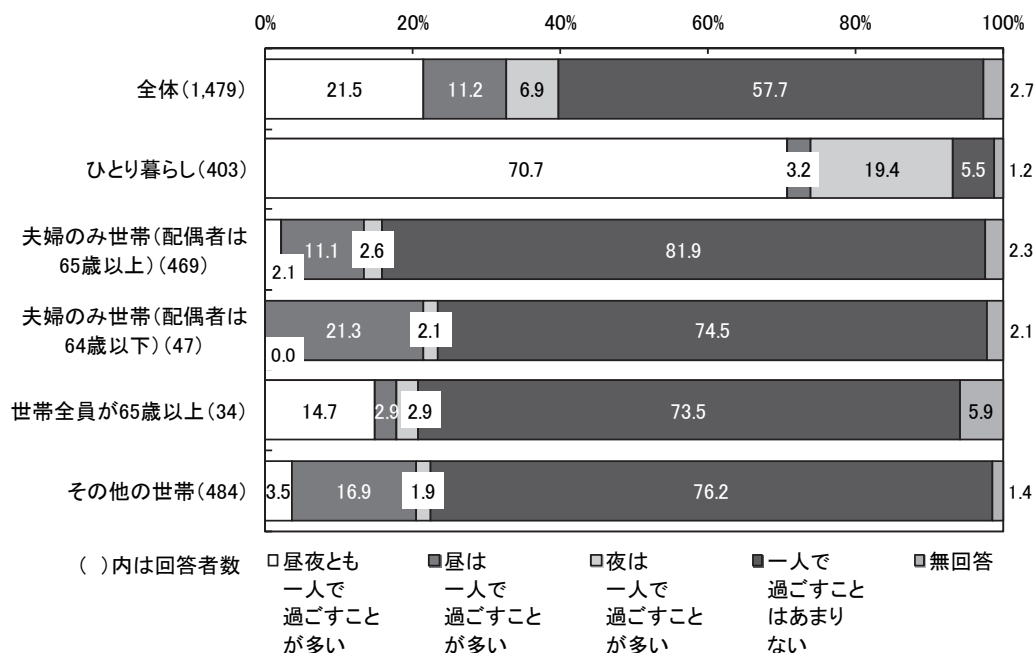
図表3-8 日中・夜間の独居状況



※ 『一人で過ごすことが多い』 = 「昼夜とも一人で過ごすことが多い」 + 「昼は一人で過ごすことが多い」 + 「夜は一人で過ごすことが多い」

家族構成別にみると、ひとり暮らしの人では「昼夜とも一人で過ごすことが多い」と回答した人が70.7%を占めている。他の家族形態の人では「一人で過ごすことはあまりない」と回答した人が7~8割となっている。

図表3-9 日中・夜間の独居状況



主に過ごしている部屋の階数別にみると、1階の人では「昼夜とも一人で過ごすことが多い」と回答した人は16.5%であるが、2階以上の人では2割を超えており、一人で過ごすことが多いと回答した人の割合が高くなっている。

困ったときに頼れる人の有無別にみると、「昼夜とも一人で過ごすことが多い」と回答した人の割合は、同居している・近所に住んでいる人では8.9%であるのに対して、いない人では63.5%であり、「昼は一人で過ごすことが多い」10.4%、「夜は一人で過ごすことが多い」6.1%をあわせた80.0%が“一人で過ごすことが多い”と回答している。

図表3-10 日中・夜間の独居状況

		回答者数(人)	昼夜とも一人で 過ごすことが多い	昼は一人で過 すことが多い	夜は一人で過 すことが多い	一人でも過 すこととあまり ない	無回答	『一人で過 すこと が多い』
全体		1,479	21.5	11.2	6.9	57.7	2.7	39.6
部屋の 階数別	1階	448	16.5	11.4	5.8	62.5	3.8	33.7
	2階	412	24.3	9.2	6.6	57.8	2.2	40.1
	3階	161	23.6	13.0	8.1	52.8	2.5	44.7
	4階以上	404	22.0	13.4	8.7	54.7	1.2	44.1
頼れる 人の有 無別	同居している・近所に住 んでいる	877	8.9	13.7	4.9	70.6	1.9	27.5
	同居・近所ではないが、 行き来できる所にいる	351	31.1	7.4	12.0	47.6	2.0	50.5
	いるが、行き来できる所 には住んでいない	103	47.6	5.8	8.7	36.9	1.0	62.1
	いない	115	63.5	10.4	6.1	18.3	1.7	80.0

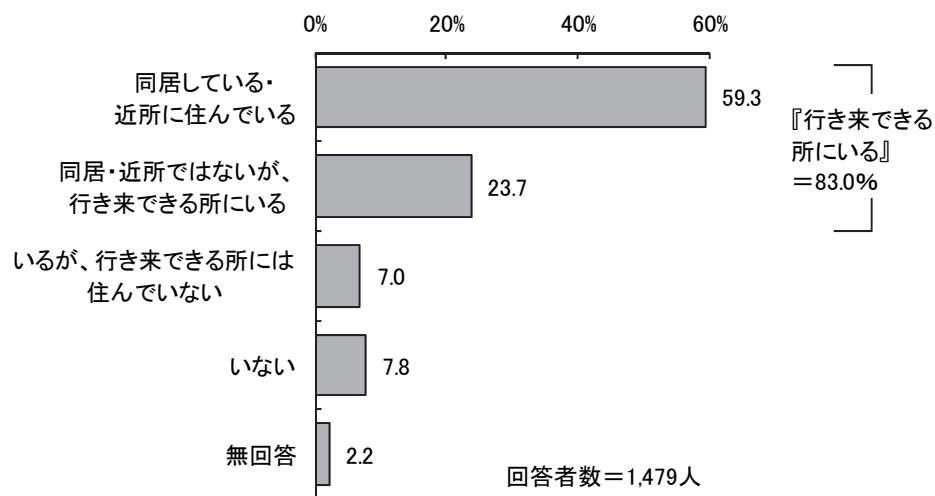
※ 『一人で過ごすことが多い』 = 「昼夜とも一人で過ごすことが多い」 + 「昼は一人で過ごすことが多い」 + 「夜は一人で過ごすことが多い」

6 困ったときに頼れる人の有無

問6 日常生活で困ったときや相談したいときに、頼れる(手助けしてくれる)家族・知人等がいますか。(1つに○)

困ったときに頼れる人が「同居している・近所に住んでいる」と回答した人は59.3%であり、「同居・近所ではないが、行き来できる所にいる」23.7%をあわせた83.0%が、「行き来できる所にいる」と回答している。一方、「いない」と回答した人は7.8%、「いるが、行き来できる所には住んでいない」と回答した人は7.0%となっている。

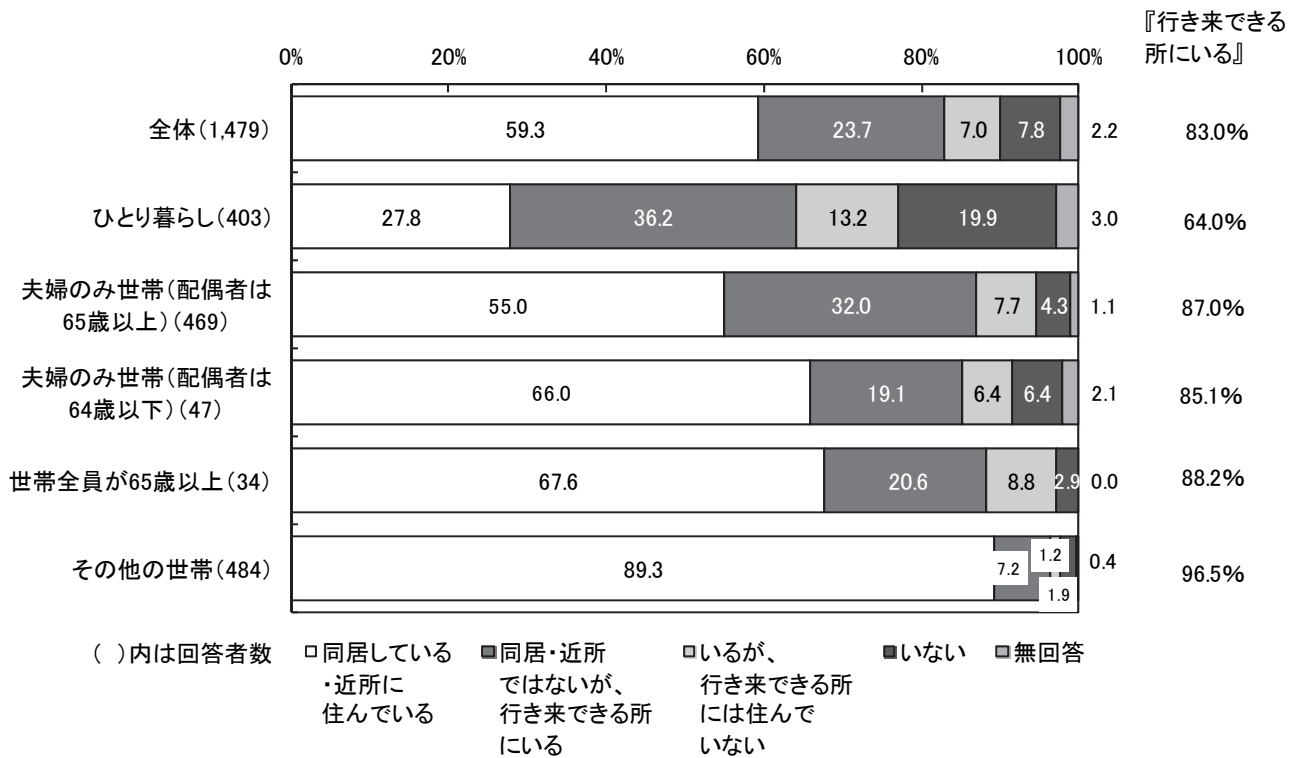
図表3-11 困ったときに頼れる人の有無



※ 『行き来できる所にいる』 = 「同居している・近所に住んでいる」 + 「同居・近所ではないが、行き来できる所にいる」

家族構成別にみると、ひとり暮らしの人で困ったときに頼れる人が「いない」と回答した人は 19.9%と他に比べて割合が高いが、「同居している・近所に住んでいる」27.8%、「同居・近所ではないが、行き来できる所に住んでいる」36.2%をあわせた 64.0%は“行き来できる所にいる”と回答している。

図表3-12 困ったときに頼れる人の有無



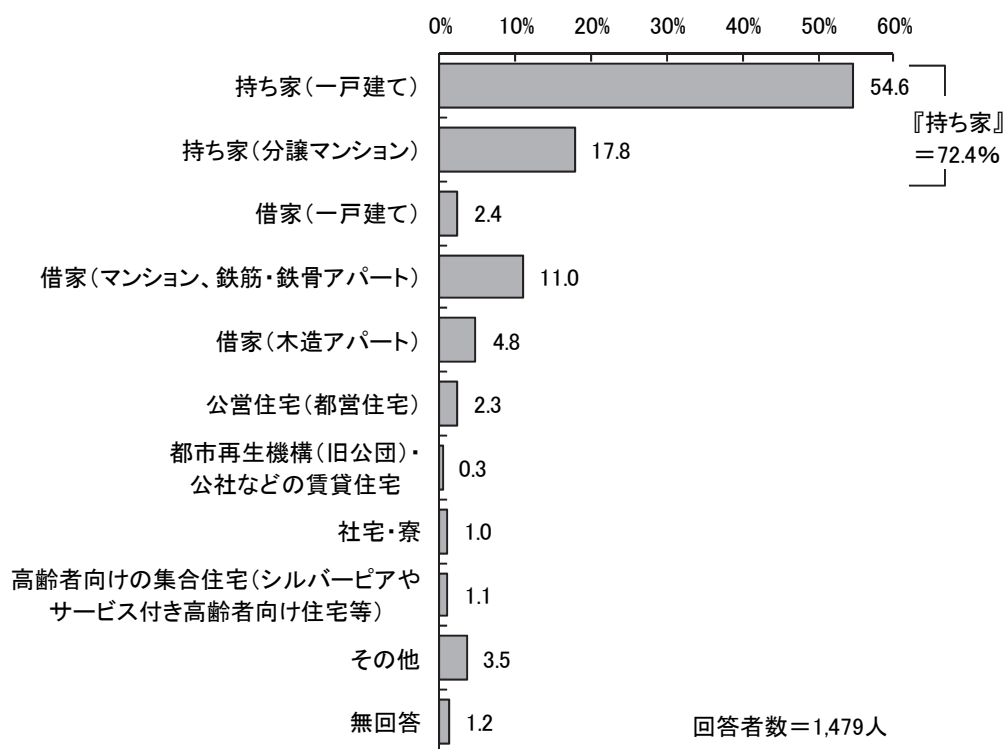
※ 『行き来できる所にいる』 = 「同居している・近所に住んでいる」 + 「同居・近所ではないが、行き来できる所にいる」

7 住宅形態

問7 お住まいの形態は次のうち、どれにあてはまりますか。(1つに○)

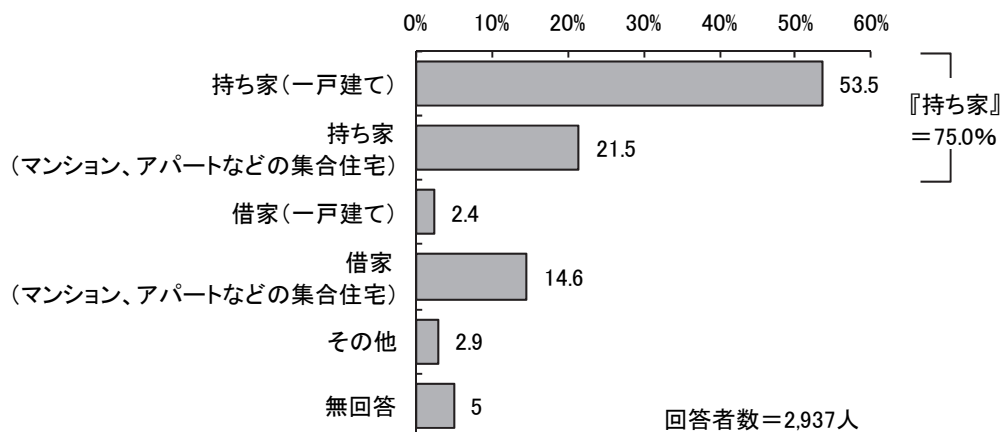
住宅形態は、「持ち家（一戸建て）」54.6%、「持ち家（分譲マンション）」17.8%と、持ち家居住者が72.4%を占めており、前回調査とほぼ同様の結果となっている。また、「借家（マンション、鉄筋・鉄骨アパート）」11.0%、「借家（木造アパート）」4.8%、「借家（一戸建て）」2.4%、「高齢者向けの集合住宅（シルバーピアやサービス付き高齢者向け住宅等）」1.1%となっている。

図表3-13 住宅形態



※ 『持ち家』 = 「持ち家（一戸建て）」 + 「持ち家（分譲マンション）」

< 前回調査 >



※ 『持ち家』 = 「持ち家（一戸建て）」 + 「持ち家（マンション、アパートなどの集合住宅）」

家族構成別にみると、子ども等との同居世帯であるその他の世帯の人では「持ち家（一戸建て）」が70.2%であるのに対し、ひとり暮らしの人では31.5%であり、「持ち家（分譲マンション）」をあわせても持ち家居住者は47.6%と半数を下回っている。また、ひとり暮らしの人は、「借家（マンション、鉄筋・鉄骨アパート）」及び「借家（木造アパート）」が他に比べて高い割合となっている。

居住地域別にみると、谷中地区及び台東地区は「持ち家（一戸建て）」、蔵前地区及び松が谷地区は「持ち家（分譲マンション）」、清川地区は「借家（木造アパート）」及び「公営住宅（都営住宅）」が、それぞれ他地域に比べて高い割合となっている。

図表3-14 住宅形態

		回答者数(人)	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション)	借家(一戸建て)	借家(マンション、鉄筋・鉄骨アパート)	借家(木造アパート)	公営住宅(都営住宅)	都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅	社宅・寮	高齢者向けの集合住宅(シルバーピアやサービス付き高齢者向け住宅等)	その他	無回答	『持ち家』
全体		1,479	54.6	17.8	2.4	11.0	4.8	2.3	0.3	1.0	1.1	3.5	1.2	72.4
家族構成別	ひとり暮らし	403	31.5	16.1	3.0	19.6	13.4	3.7	0.2	0.5	3.7	7.2	1.0	47.6
	夫婦のみ世帯 (配偶者は65歳以上)	469	57.8	22.4	2.1	9.0	2.6	2.6	0.4	1.3	0.2	1.1	0.6	80.2
	夫婦のみ世帯 (配偶者は64歳以下)	47	53.2	25.5	4.3	10.6	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	78.7
	世帯全員が65歳以上	34	64.7	5.9	2.9	11.8	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	2.9	70.6
	その他の世帯	484	70.2	15.3	2.1	6.2	0.2	0.8	0.4	1.4	0.0	3.1	0.2	85.5
居住地域別	谷中地区	137	68.6	16.1	1.5	5.8	4.4	0.0	0.7	1.5	0.0	1.5	0.0	84.7
	台東地区	211	67.8	17.5	3.3	5.7	0.9	0.0	0.5	0.9	0.0	1.9	1.4	85.3
	蔵前地区	237	51.5	22.8	2.1	13.1	0.8	3.0	0.0	1.7	1.3	3.0	0.8	74.3
	浅草地区	234	55.1	15.8	2.1	15.8	5.6	0.0	0.0	0.4	1.7	2.6	0.9	70.9
	三ノ輪地区	203	51.7	15.8	3.4	11.3	4.9	3.4	0.5	0.5	2.0	5.9	0.5	67.5
	松が谷地区	254	46.5	22.8	2.4	12.2	7.1	2.0	0.8	1.6	2.0	2.8	0.0	69.3
	清川地区	179	50.8	10.6	1.1	9.5	10.1	8.4	0.0	0.6	0.0	7.3	1.7	61.4

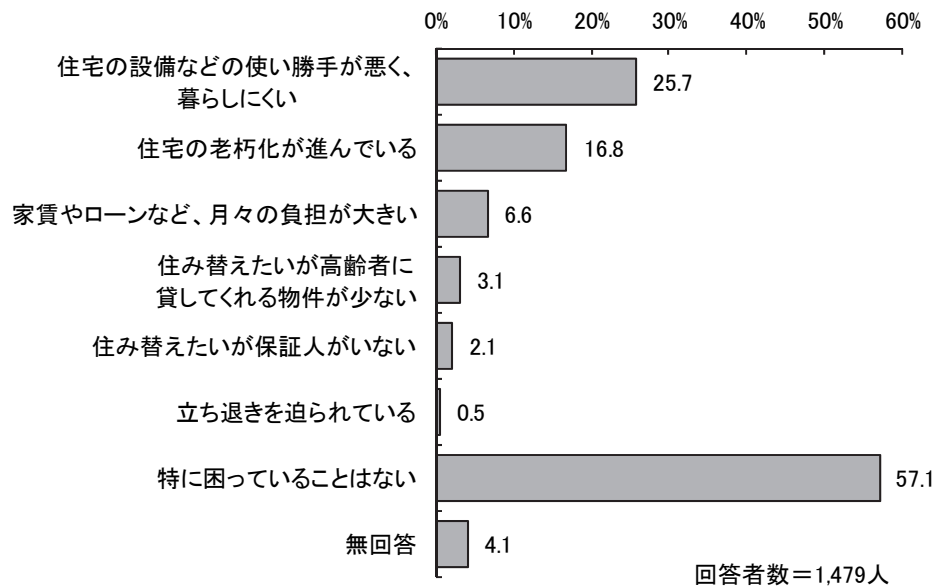
※ 『持ち家』 = 「持ち家（一戸建て）」 + 「持ち家（分譲マンション）」

8 住まいでの困りごと

問 8 現在、お住まいの住宅でお困りのことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

住まいでの困りごとは、「住宅の設備などの使い勝手が悪く、暮らしにくい」が 25.7%、次いで「住宅の老朽化が進んでいる」16.8%、「家賃やローンなど、月々の負担が大きい」6.6%となっているが、「特に困っていることはない」と回答した人も 57.1%と半数以上を占めている。

図表3-15 住まいでの困りごと(複数回答)



住宅形態別にみると、持ち家（一戸建て）の人の 59.3%、持ち家（分譲マンション）の 75.3%の人が「特になし」と回答している。一方、借家（木造アパート）の人では「住宅の設備などの使い勝手が悪く、暮らしにくい」63.4%、「住宅の老朽化が進んでいる」26.8%、借家（一戸建て）の人では「住宅の老朽化が進んでいる」48.6%、「住宅の設備などの使い勝手が悪く、暮らしにくい」45.7%となっている。

図表3-16 住まいでの困りごと

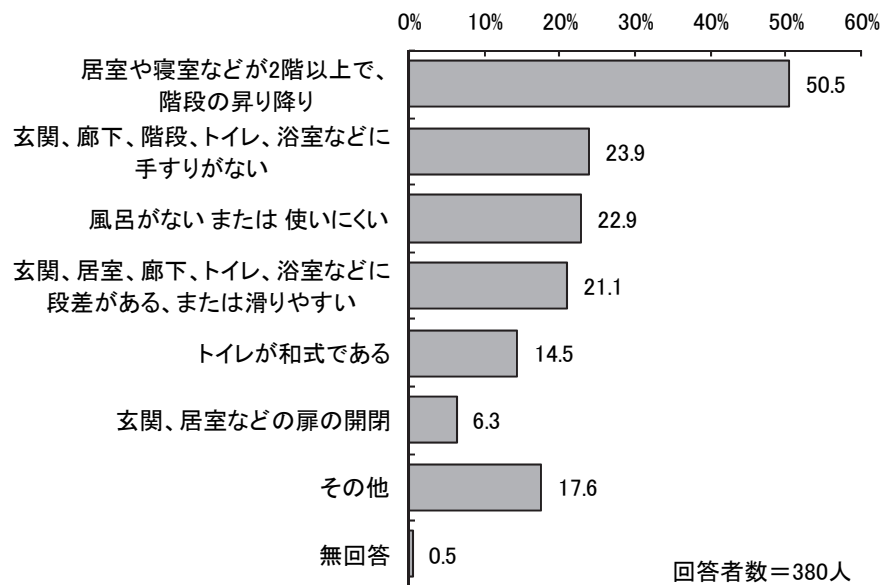
		回答者数(人)	住宅の設備などの使い勝手が悪く、暮らしにくい	住宅の老朽化が進んでいる	家賃やローンなど、月々の負担が大きい	住み替えたいが高齢者に貸してくれる物件が少ない	住み替えたいが保証人がいない	立ち退きを迫られている	特に困っていることはない	無回答
全体		1,479	25.7	16.8	6.6	3.1	2.1	0.5	57.1	4.1
住宅形態別	持ち家(一戸建て)	808	25.9	20.2	1.5	0.5	0.2	0.1	59.3	3.2
	持ち家(分譲マンション)	263	11.4	8.7	4.2	1.9	0.8	0.0	75.3	3.0
	借家(一戸建て)	35	45.7	48.6	22.9	11.4	5.7	2.9	28.6	0.0
	借家(マンション、鉄筋・鉄骨アパート)	162	25.9	9.3	28.4	8.6	4.3	1.2	46.3	3.7
	借家(木造アパート)	71	63.4	26.8	15.5	14.1	14.1	4.2	16.9	4.2
	公営住宅(都営住宅)	34	23.5	2.9	11.8	2.9	0.0	0.0	55.9	8.8
	都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅	5	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	社宅・寮	15	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	73.3	0.0
	高齢者向けの集合住宅	16	6.3	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	12.5
	その他	52	38.5	13.5	7.7	9.6	11.5	1.9	44.2	7.7

9 住宅設備での困りごと

問8-1 問8で「住宅の設備などの使い勝手が悪く、暮らしにくい」に○をした方におうかがいします。具体的にどのような設備などに困っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

住宅設備での困りごとは、「居室や寝室などが2階以上で、階段の昇り降り」50.5%、「玄関、廊下、階段、トイレ、浴室などに手すりがない」23.9%、「風呂がないまたは使いにくい」22.9%、「玄関、居室、廊下、トイレ、浴室などに段差がある、または滑りやすい」21.1%の順となっている。

図表3-17 住宅設備での困りごと(複数回答)



10 主に過ごしている部屋の階数とエレベーターの有無

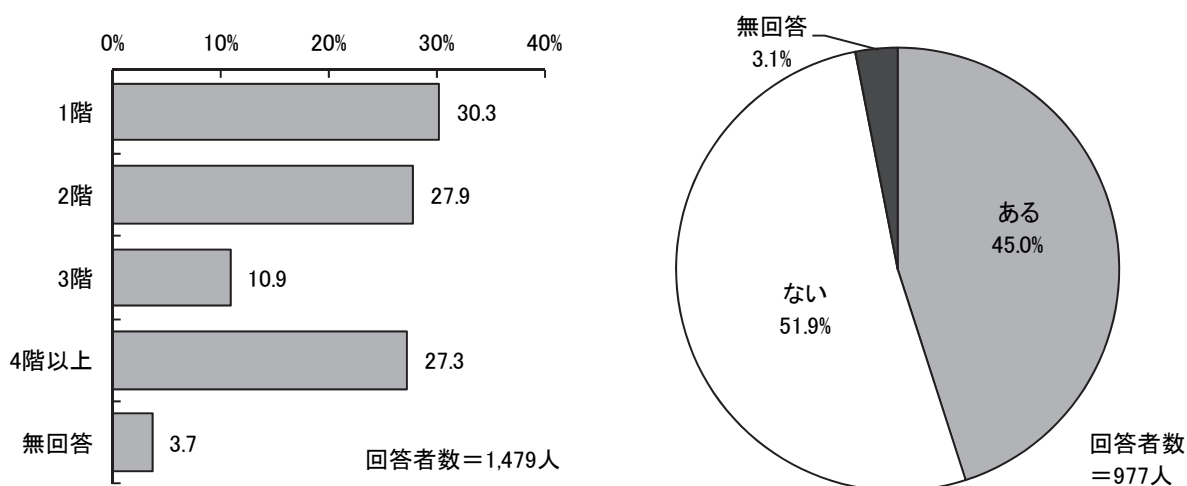
問9 ふだん、1日の中で主に過ごしている部屋は何階ですか。(1つに○)

問9-1 問9で「2階」「3階」「4階以上」に○をした方におうかがいします。お住まいにエレベーターはありますか。(1つに○)

主に過ごしている部屋の階数は、「1階」30.3%、「2階」27.9%に次いで、「4階以上」27.3%となっている。

主に2階以上で過ごしている人のエレベーターの有無については、「ない」が51.9%と、「ある」45.0%を上回っている。

図表3-18 主に過ごしている部屋の階数／エレベーターの有無



主に過ごしている部屋の階数別にみると、エレベーターがある人の割合は、2階の人では11.2%、3階の人では36.6%、4階以上の人では82.9%となっている。

図表3-19 エレベーターの有無

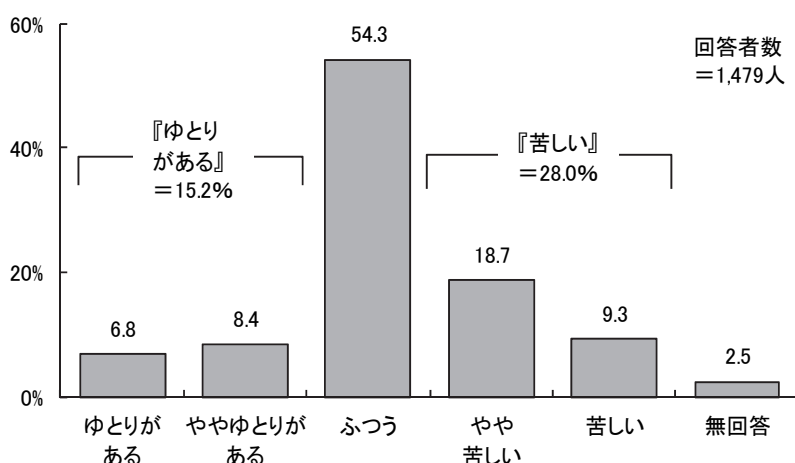
		回答者数(人)	ある	ない	無回答
全体		977	45.0	51.9	3.1
部屋の階数別	2階	412	11.2	87.6	1.2
	3階	161	36.6	57.8	5.6
	4階以上	404	82.9	13.1	4.0

1.1 暮らし向き

問 10 経済的にみて、現在の暮らしの状況をどう感じていますか。(1つに○)

暮らし向きは、「ふつう」が 54.3%を占めている。「ゆとりがある」6.8%、「ややゆとりがある」8.4%をあわせた“ゆとりがある”と回答した人が 15.2%、「やや苦しい」18.7%、「苦しい」9.3%をあわせた“苦しい”と回答した人は 28.0%となっている。

図表3-20 暮らし向き



昨年の年間収入別にみると、“苦しい”と回答した人は、80万円未満では 58.6%、80万円～200万円未満では 48.0%となっている。一方、“ゆとりがある”と回答した人は、750万円～1,000万円未満では 45.8%、1,000万円以上では 65.1%となっている。

図表3-21 暮らし向き

		回答者数(人)	ゆとりがある	ややゆとりがある	ふつう	やや苦しい	苦しい	無回答	『ゆとりがある』	『苦しい』
全体		1,479	6.8	8.4	54.3	18.7	9.3	2.5	15.2	28.0
昨年の年間収入別	80万円未満	104	1.9	2.9	34.6	28.8	29.8	1.9	4.8	58.6
	80万円～200万円未満	335	0.9	2.7	47.2	30.7	17.3	1.2	3.6	48.0
	200万円～300万円未満	288	1.7	4.2	61.8	24.7	6.3	1.4	5.9	31.0
	300万円～500万円未満	290	5.9	9.3	67.9	11.7	2.8	2.4	15.2	14.5
	500万円～750万円未満	147	15.0	15.0	59.9	7.5	2.0	0.7	30.0	9.5
	750万円～1,000万円未満	72	25.0	20.8	47.2	2.8	4.2	0.0	45.8	7.0
	1,000万円以上	89	34.8	30.3	30.3	2.2	1.1	1.1	65.1	3.3

※ 『ゆとりがある』 = 「ゆとりがある」 + 「ややゆとりがある」

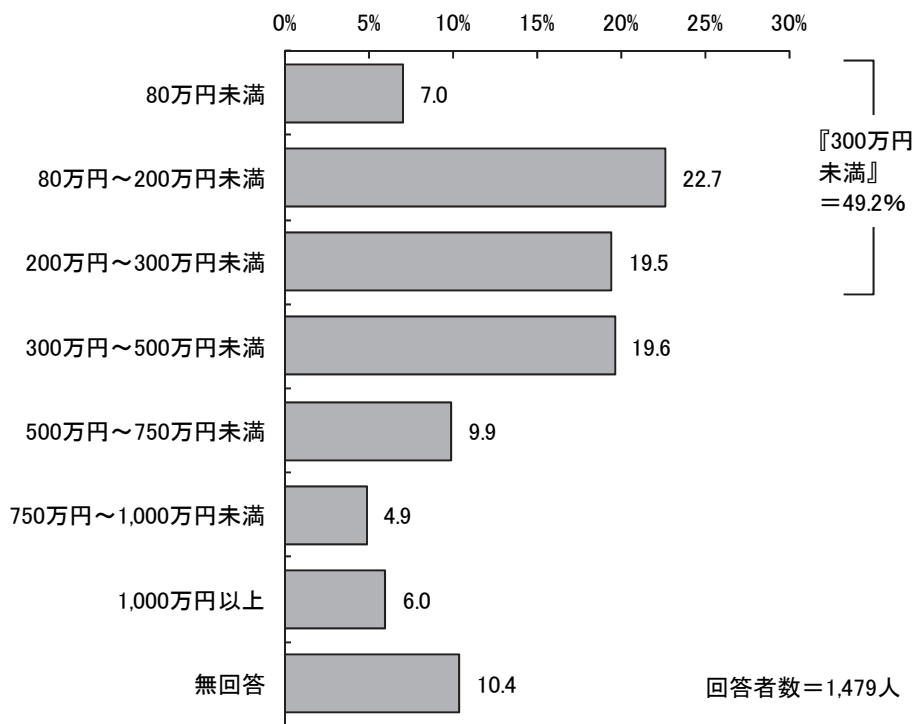
※ 『苦しい』 = 「やや苦しい」 + 「苦しい」

1 2 世帯の年間収入

問 11 あなたの世帯(ご家族を含む)の昨年の年間収入総額(税込)はどのくらいですか。
(1つに○)

世帯の年間年収は、「80万円～200万円未満」22.7%、「300万円～500万円未満」19.6%、「200万円～300万円未満」19.5%の順であり、「300万円未満」の人が49.2%と約半数を占めている。

図表3-22 世帯の年間収入



※ 『300万円未満』 = 「80万円未満」 + 「80万円～200万円未満」
+ 「200万円～300万円未満」

II 健康や医療について

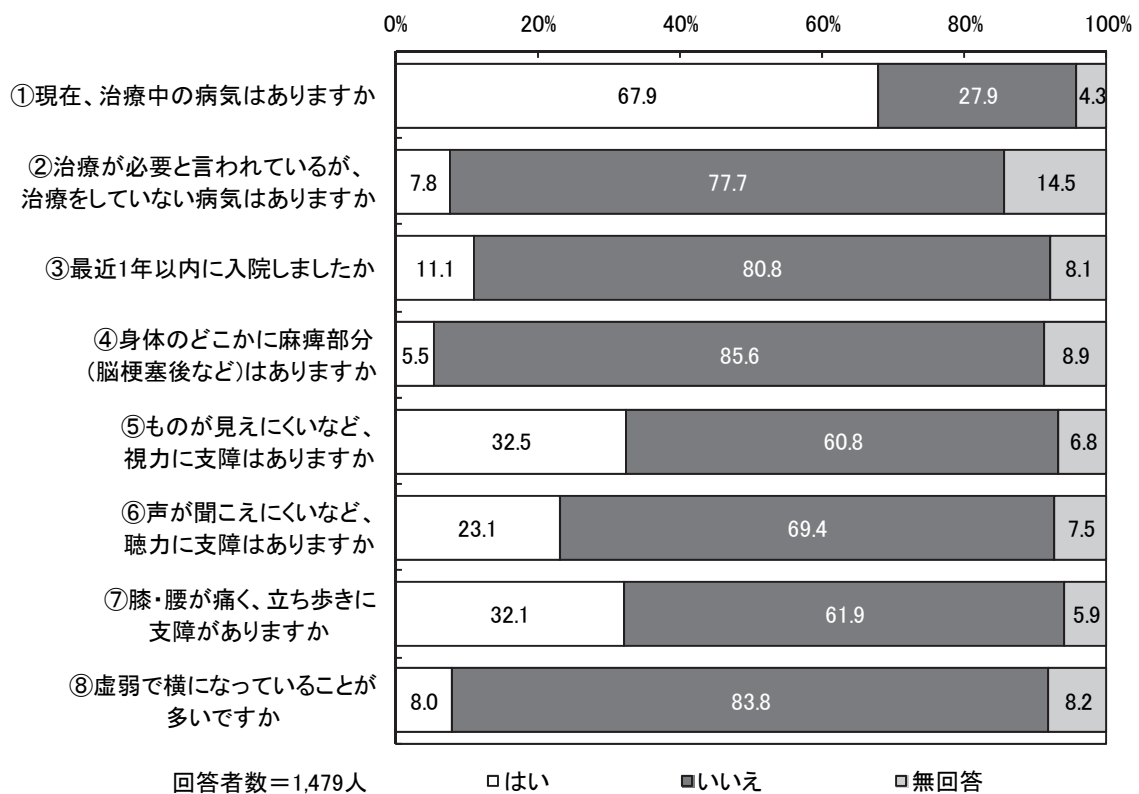
1 健康状態

問 12 ふだんの健康状態について、①～⑧のそれぞれ1つに○をしてください。

①治療中の病気がある人は 67.9%、②治療が必要だが治療をしていない病気がある人は 7.8%、③1年以内に入院したことがある人は 11.1%となっている。

また、⑤視力に支障がある人は 32.5%、⑦膝・腰痛で立ち歩きに支障がある人は 32.1%、⑥聴力に支障がある人は 23.1%であり、④身体のどこかに麻痺部分(脳梗塞後など)がある人は 5.5%、⑧虚弱で横になっていることが多い人は 8.0%となっている。

図表3-23 健康状態



年齢別にみると、⑥聴力に支障がある人、及び⑦膝・腰痛で立ち歩きに支障がある人は、年齢層が高くなるほど割合が高くなっている。⑥聴力に支障がある人は、65～69歳の14.7%から、85歳以上では40.2%に、⑦膝・腰痛で立ち歩きに支障がある人の割合は、65～69歳の24.4%から、85歳以上では52.6%に増加している。

また、①治療中の病気がある人、及び③1年以内に入院している人の割合は、84歳までは年齢層が高くなるにつれて割合も高くなっている。また、④身体のどこかに麻痺部分がある人及び⑤視力に支障がある人の割合は80～84歳以上を境に増加している。②治療が必要だが治療をしていない病気がある人の割合は、加齢による顕著な差はみられない。

図表3-24 健康状態

		回答者数(人)	①治療中の病気はあるか		②治療が必要だがしていない病気はあるか		③1年以内に入院したか		④身体のどこかに麻痺部分はあるか	
			はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
全体		1,479	67.9	27.9	7.8	77.7	11.1	80.8	5.5	85.6
年齢別	65～69歳	430	63.0	34.2	9.1	82.8	9.1	86.3	4.9	89.5
	70～74歳	412	66.7	31.6	5.6	83.5	10.4	82.3	4.4	88.1
	75～79歳	335	73.1	21.5	7.2	73.7	12.2	77.9	5.4	83.3
	80～84歳	184	73.4	20.1	9.2	67.9	14.7	73.9	8.2	78.8
	85歳以上	97	68.0	21.6	6.2	67.0	8.2	77.3	8.2	78.4

		回答者数(人)	⑤視力に支障はあるか		⑥聴力に支障はあるか		⑦膝・腰痛で立ち歩きに支障があるか		⑧虚弱で横になっていることが多いか	
			はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
全体		1,479	32.5	60.8	23.1	69.4	32.1	61.9	8.0	83.8
年齢別	65～69歳	430	31.4	63.7	14.7	80.5	24.4	71.4	6.5	88.4
	70～74歳	412	32.0	62.9	21.1	73.3	24.5	70.9	5.6	88.6
	75～79歳	335	31.6	59.1	24.8	64.8	34.6	57.0	9.6	79.1
	80～84歳	184	34.8	56.0	33.2	57.1	51.1	41.3	12.0	75.5
	85歳以上	97	38.1	54.6	40.2	49.5	52.6	42.3	13.4	77.3

※ 「無回答」は掲載を省略している

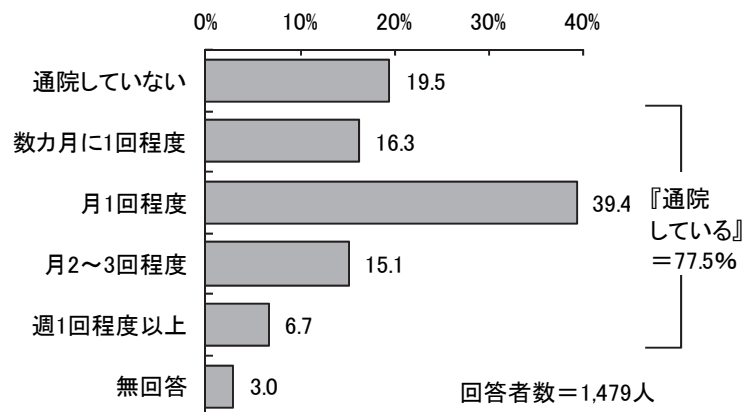
2 通院状況

問 13 現在、病院や診療所等へ通院していますか。また、通院している方は、通院回数ほどのくらいですか。(1つに○)

通院状況については、“通院している”（「数カ月に1回程度」、「月1回程度」、「月2～3回程度」、「週1回程度以上」をあわせた割合）と回答した人が77.5%であり、「通院していない」が19.5%となっている。

通院頻度は「月1回程度」が39.4%と最も高く、次いで「数カ月に1回程度」16.3%、「月2～3回程度」15.1%、「週1回程度以上」6.7%となっている。

図表3-25 通院状況



年齢別にみると、“通院している”人は、80～84歳で87.6%と最も高く、65～69歳では71.2%と最も低くなっている。

図表3-26 通院状況

		回答者数(人)	通院していない	数カ月に1回程度	月1回程度	月2～3回程度	週1回程度以上	無回答	『通院している』
全体		1,479	19.5	16.3	39.4	15.1	6.7	3.0	77.5
年齢別	65～69歳	430	26.3	19.8	35.8	11.4	4.2	2.6	71.2
	70～74歳	412	24.5	15.5	38.3	13.6	5.8	2.2	73.2
	75～79歳	335	13.4	13.4	46.0	15.5	8.4	3.3	83.3
	80～84歳	184	9.8	14.7	38.6	24.5	9.8	2.7	87.6
	85歳以上	97	8.2	16.5	41.2	19.6	9.3	5.2	86.6

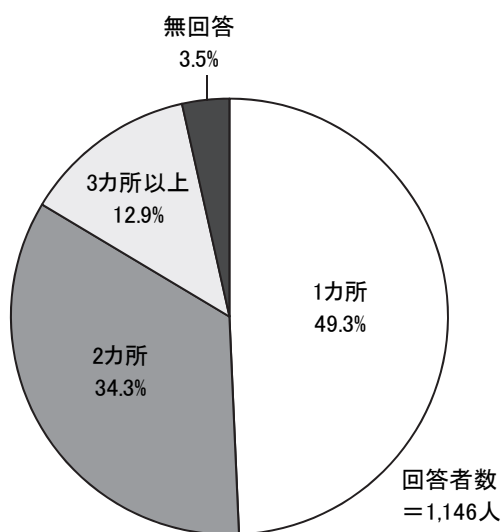
※ 『通院している』 = 「数カ月に1回程度」 + 「月1回程度」 + 「月2～3回程度」 + 「週1回程度以上」

3 通院している病院・診療所数

問 13-1 問 13 で「数カ月に 1 回程度」「月 1 回程度」「月 2～3 回程度」「週 1 回程度以上」に○をした方におうかがいします。通院している病院や診療所等は、何カ所ありますか。(1つに○)

通院している病院・診療所数は、「1カ所」が 49.3%と約半数を占めており、「2カ所」34.3%、「3カ所以上」12.9%となっている。

図表3-27 通院している病院・診療所数

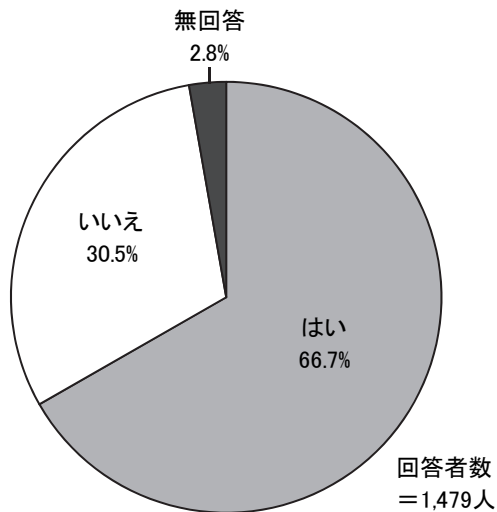


4 かかりつけ医の有無

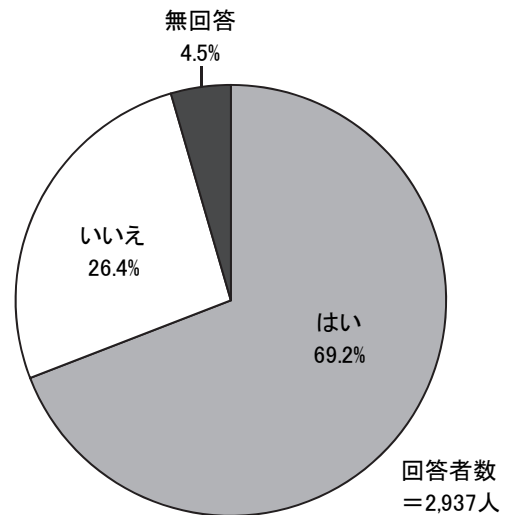
問 14 ふだんから治療や指導を受けたり、健康について相談できる「かかりつけ医」が、自宅近くにいますか。(1つに○)

かかりつけ医がいる（「はい」と回答）人の割合は66.7%であり、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

図表3-28 かかりつけ医の有無



<前回調査>



図表3-29 かかりつけ医の有無

		回答者数(人)	はい	いいえ	無回答
全体		1,479	66.7	30.5	2.8
年齢別	65～69歳	430	60.2	37.4	2.3
	70～74歳	412	65.5	33.0	1.5
	75～79歳	335	73.1	22.4	4.5
	80～84歳	184	70.1	28.3	1.6
	85歳以上	97	75.3	18.6	6.2
居住地域別	谷中地区	137	69.3	28.5	2.2
	台東地区	211	69.7	28.9	1.4
	蔵前地区	237	69.6	27.8	2.5
	浅草地区	234	68.4	29.9	1.7
	三ノ輪地区	203	66.5	29.6	3.9
	松が谷地区	254	66.1	29.5	4.3
	清川地区	179	57.0	40.2	2.8

年齢別にみると、かかりつけ医がいる（「はい」と回答）人の割合は、75歳以上では7割を超えている。

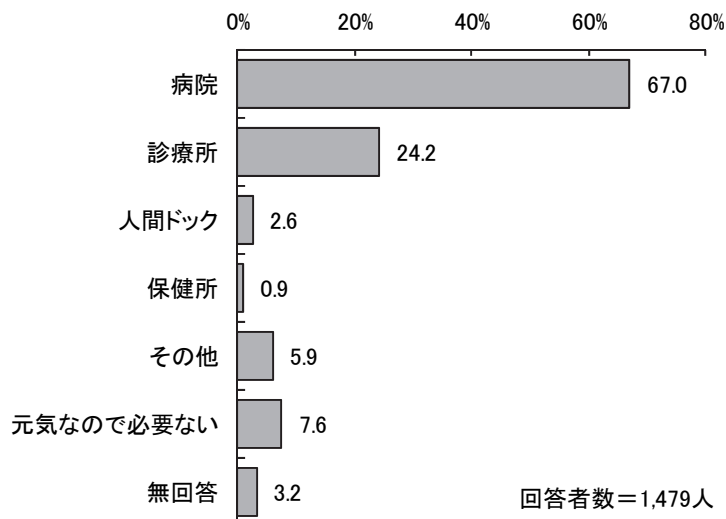
居住地域別にみると、かかりつけ医がいる（「はい」と回答）人の割合は清川地区で57.0%ともっとも低く、その他の地域では6割を超えている。

5 病気や健康に関する相談場所

問 15 病気の治療や健康については、どこに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

病気や健康に関する相談場所は、「病院」67.0%、「診療所」24.2%の順となっている。

図表3-30 病気や健康に関する相談場所(複数回答)

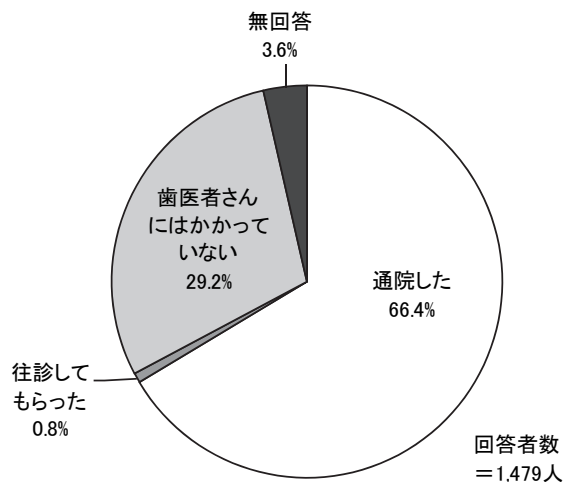


6 歯医者への受診状況

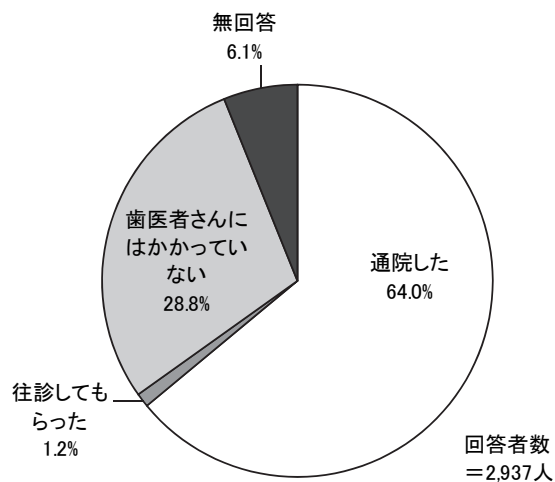
問 16 過去1年間に、歯医者さんにかかったことはありますか。(1つに○)

歯医者への受診状況を見ると、「通院した」66.4%、「往診してもらった」0.8%をあわせた“歯科医にかかっている”人の割合は67.2%であり、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

図表3-31 歯医者への受診状況



<前回調査>

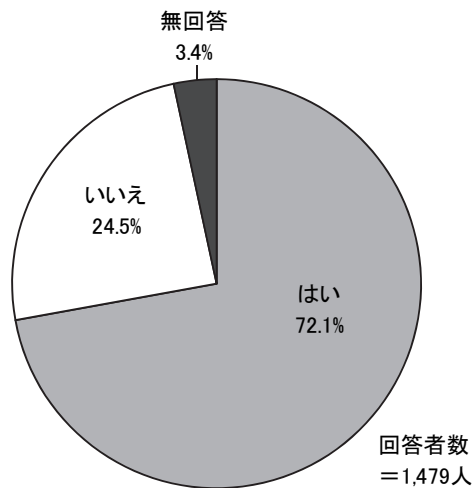


7 かかりつけ歯科医の有無

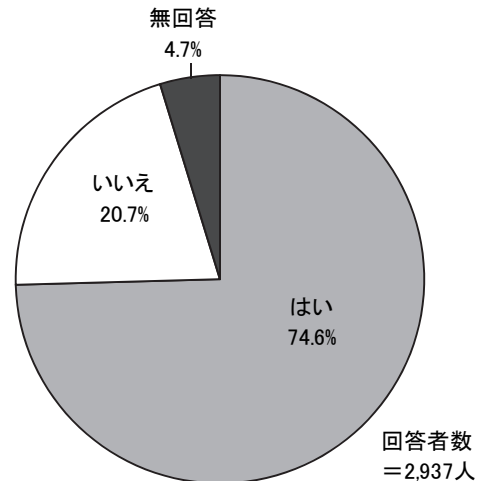
問 17 ふだんから歯の治療や指導を受けたり、歯の健康について相談できる「かかりつけ歯科医」が、自宅近くにいますか。(1つに○)

かかりつけ歯科医がいる（「はい」と回答）人の割合は72.1%であり、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

図表3-32 かかりつけ歯科医の有無



<前回調査>



図表3-33 かかりつけ歯科医の有無

		回答者数(人)	はい	いいえ	無回答
全体		1,479	72.1	24.5	3.4
年齢別	65～69歳	430	68.6	29.3	2.1
	70～74歳	412	74.8	23.1	2.2
	75～79歳	335	77.6	19.1	3.3
	80～84歳	184	68.5	26.1	5.4
	85歳以上	97	67.0	25.8	7.2
居住地別	谷中地区	137	77.4	20.4	2.2
	台東地区	211	71.6	24.2	4.3
	蔵前地区	237	74.3	24.9	0.8
	浅草地区	234	73.5	24.4	2.1
	三ノ輪地区	203	70.4	25.6	3.9
	松が谷地区	254	75.2	20.9	3.9
	清川地区	179	64.2	30.7	5.0

年齢別にみると、かかりつけ歯科医がいる（「はい」と回答）人の割合は、85歳以上で67.0%ともっとも低く、75～79歳で77.6%ともっとも高いが、加齢による顕著な差はみられない。

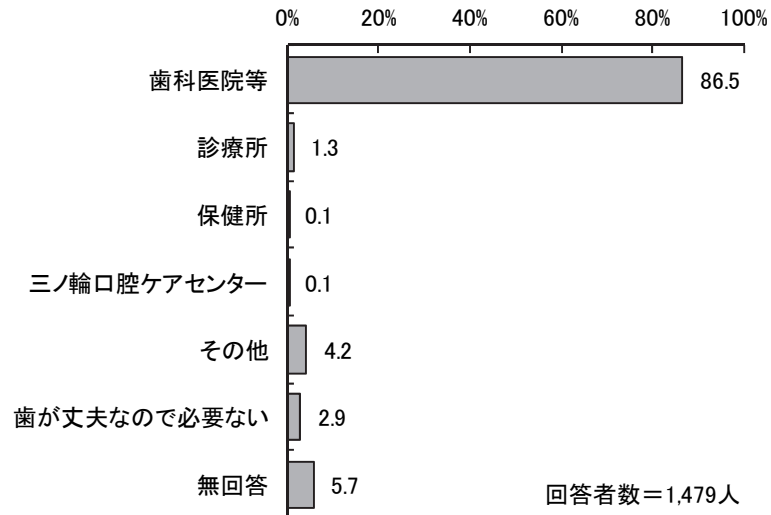
居住地別にみると、かかりつけ歯科医がいる（「はい」と回答）人の割合は、谷中地区が77.4%ともっとも高く、清川地区が64.2%ともっとも低くなっている。

8 歯の健康に関する相談場所

問 18 歯の健康や治療については、どこに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

歯の健康に関する相談場所は、「歯科医院等」が86.5%ともっとも高くなっている。

図表3-34 歯の健康に関する相談場所(複数回答)

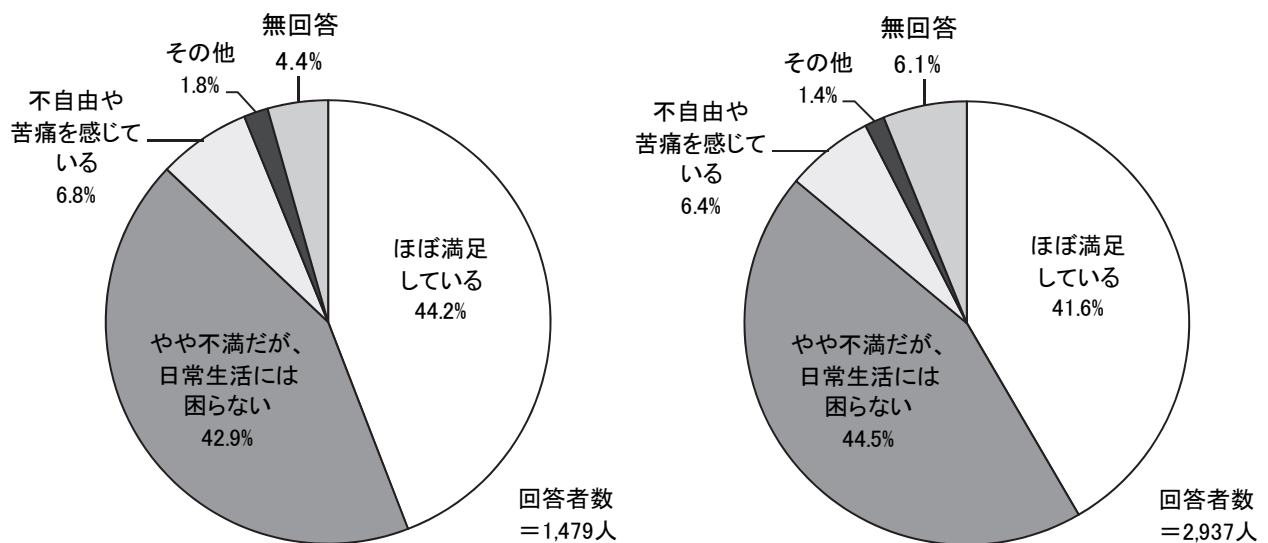


9 口内や歯の状態の満足度

問 19 口の中や歯の状態(入れ歯を入れている状態を含みます)を、どのように感じていますか。(1つに○)

口内や歯の状態の満足度は、「ほぼ満足している」44.2%、「やや不満だが、日常生活には困らない」42.9%であり、これらをあわせた 87.1%が“日常生活には困らない”と回答している。全体的に前回調査とほぼ同様の結果となっている。

図表3-35 口内や歯の状態の満足度



年齢別にみると、加齢による顕著な差はみられない。

図表3-36 口内や歯の状態の満足度

		回答者数(人)	ほぼ満足している	やや不満だが、日常生活には困らない	不自由や苦痛を感じている	その他	無回答	『日常生活には困らない』
全体		1,479	44.2	42.9	6.8	1.8	4.4	87.1
年齢別	65～69歳	430	37.4	48.4	8.6	1.4	4.2	85.8
	70～74歳	412	49.8	40.0	4.9	1.5	3.9	89.8
	75～79歳	335	46.9	41.8	5.7	1.8	3.9	88.7
	80～84歳	184	41.8	40.8	8.2	3.3	6.0	82.6
	85歳以上	97	48.5	38.1	8.2	1.0	4.1	86.6

※ 『日常生活には困らない』 = 「ほぼ満足している」 + 「やや不満だが、日常生活には困らない」

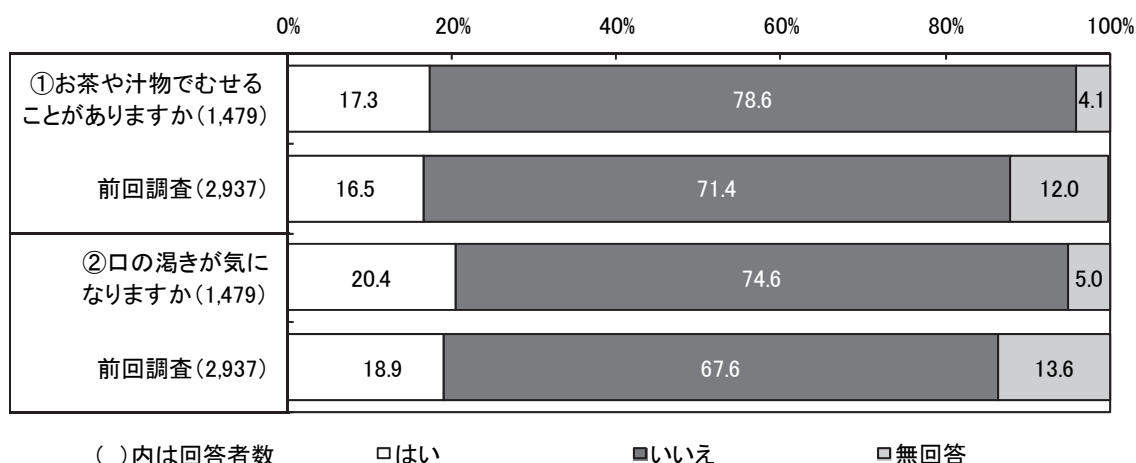
10 食事のとき気になること

問 20 食事などのときに、次のことで気になることはありますか。(それぞれ1つに○)

食事などのとき、①お茶や汁物でむせることがある人は 17.3%、②口の渇きが気になる人は 20.4%となっている。

一方、「いいえ」と回答した人は、いずれも前回調査に比べて高い割合となっている。

図表3-37 食事のとき気になること



年齢別にみると、①お茶や汁物でむせることがある人は年齢が高い層に割合が高く、80歳以上では2割を超えている。②口の渇きが気になる人の割合は、加齢による顕著な差はみられない。

図表3-38 食事のとき気になること

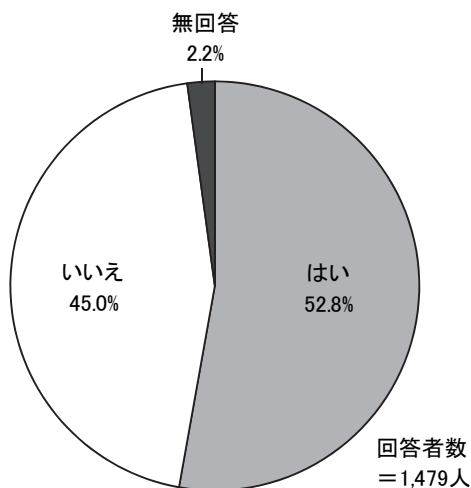
	年齢別	回答者数(人)	①お茶や汁物でむせたことがあるか			②口の渇きが気になるか		
			はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体		1,479	17.3	78.6	4.1	20.4	74.6	5.0
	65～69歳	430	14.2	83.3	2.6	19.5	76.7	3.7
	70～74歳	412	16.3	81.1	2.7	17.7	78.2	4.1
	75～79歳	335	18.8	76.4	4.8	25.7	69.3	5.1
	80～84歳	184	21.7	70.7	7.6	19.6	71.7	8.7
	85歳以上	97	21.6	70.1	8.2	21.6	72.2	6.2

1.1 かかりつけ薬局の有無

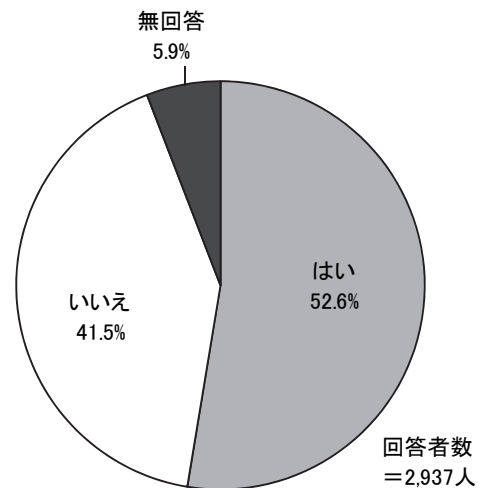
問 21 ふだんから身近な地域で薬の相談ができる「かかりつけ薬局」がありますか。
(1つに〇)

かかりつけ薬局がある（「はい」と回答）人の割合 52.8%であり、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

図表3-39 かかりつけ薬局の有無



<前回調査>



図表3-40 かかりつけ薬局の有無

		回答者数(人)	はい	いいえ	無回答
全体		1,479	52.8	45.0	2.2
年齢別	65～69歳	430	47.7	50.7	1.6
	70～74歳	412	48.5	50.2	1.2
	75～79歳	335	58.8	38.8	2.4
	80～84歳	184	60.3	34.8	4.9
	85歳以上	97	58.8	39.2	2.1
居住地別	谷中地区	137	51.1	46.7	2.2
	台東地区	211	49.3	49.3	1.4
	蔵前地区	237	54.9	44.3	0.8
	浅草地区	234	54.7	43.6	1.7
	三ノ輪地区	203	60.1	36.9	3.0
	松が谷地区	254	53.5	43.3	3.1
	清川地区	179	44.7	52.5	2.8

年齢別にみると、かかりつけ薬局がある（「はい」と回答）人は、84歳までは年齢層が高くなるほど割合が高くなっており、80～84歳では60.3%となっている。

居住地別にみると、清川地区は他に比べてかかりつけ薬局がある（「はい」と回答）人の割合が低くなっている。

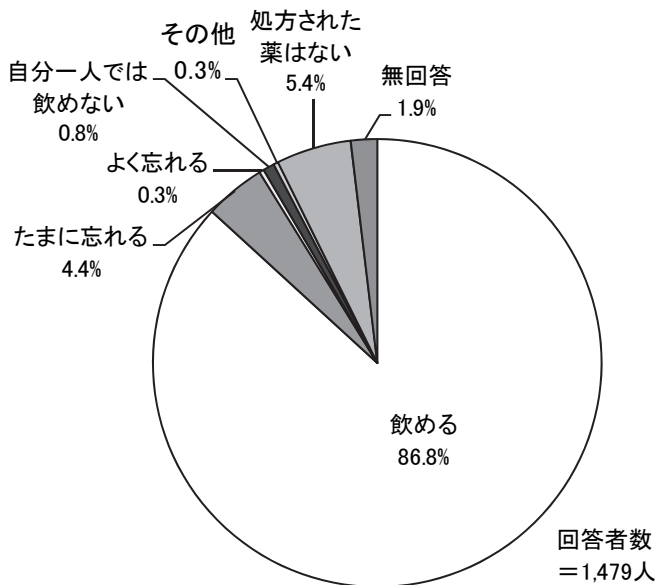
1 2 自身の管理による服薬の可否

問 22 主治医から処方された薬を、自分で管理して、指示どおりに飲むことができますか。
(1つに○)

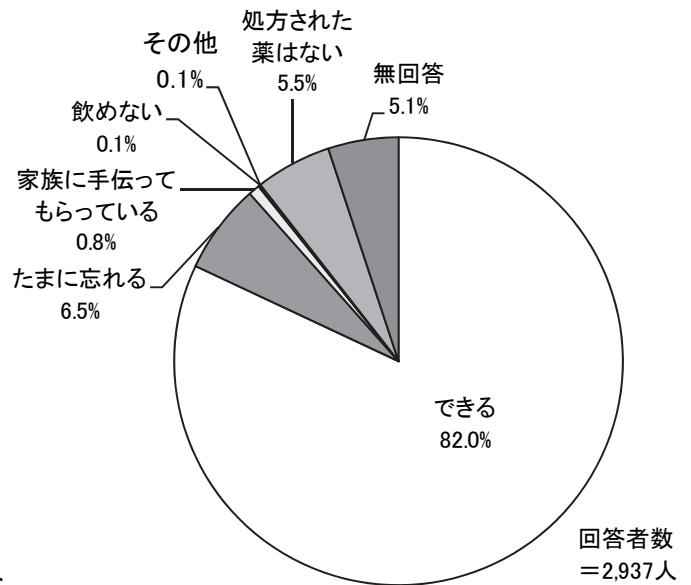
自身の管理による服薬の可否は、「飲める」と回答した人が 86.8%を占めており、「たまに忘れる」4.4%、「よく忘れる」0.3%、「自分一人では飲めない」0.8%となっている。

また、「飲める」(前回調査は「できる」)と回答した人は、前回調査より 4.8 ポイント高くなっている。

図表3-41 自身の管理による服薬の可否



<前回調査>



図表3-42 自身の管理による服薬の可否

		回答者数(人)	飲める	たまに忘れる	よく忘れる	自分一人では飲めない	その他	処方された薬はない	無回答
全体		1,479	86.8	4.4	0.3	0.8	0.3	5.4	1.9
年齢別	65~69歳	430	87.2	2.3	0.5	0.0	0.2	8.1	1.6
	70~74歳	412	85.0	4.6	0.2	0.2	0.5	7.5	1.9
	75~79歳	335	88.4	6.0	0.0	0.6	0.3	2.4	2.4
	80~84歳	184	88.6	5.4	1.1	1.6	0.0	1.1	2.2
	85歳以上	97	86.6	3.1	0.0	6.2	1.0	3.1	0.0

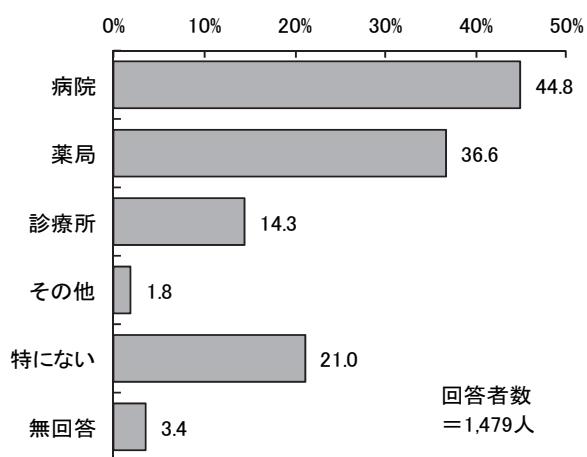
年齢別にみると、年齢層にかかわらず 85%以上の方が「飲める」と回答している。一方、「自分一人では飲めない」と回答した人は、年齢層が高くなるほど割合が高くなっており、85歳以上では 6.2%となっている。

1.3 薬についての相談場所

問 23 薬の飲み合わせや副作用については、どこに相談しますか。
(あてはまるものすべてに○)

薬についての相談場所は、「病院」44.8%、「薬局」36.6%、「診療所」14.3%の順となっている。また、「特にない」と回答した人は21.0%となっている。

図表3-43 薬についての相談場所(複数回答)

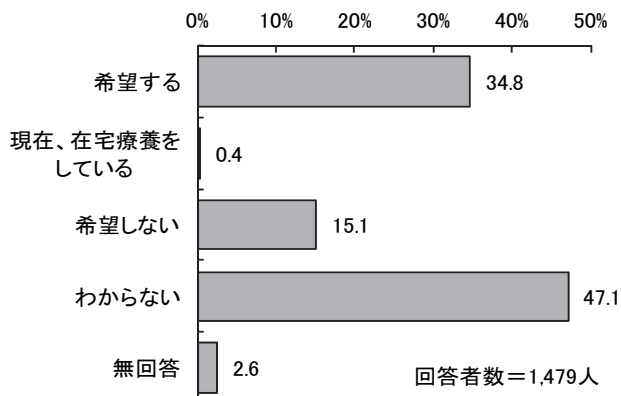


1.4 在宅療養に対する意向

問 24 脳卒中の後遺症や末期がんなどで療養が必要になった場合、自宅で往診などの医療や介護サービスを受けながら生活する「在宅療養」を希望しますか。
(近いもの1つに○)

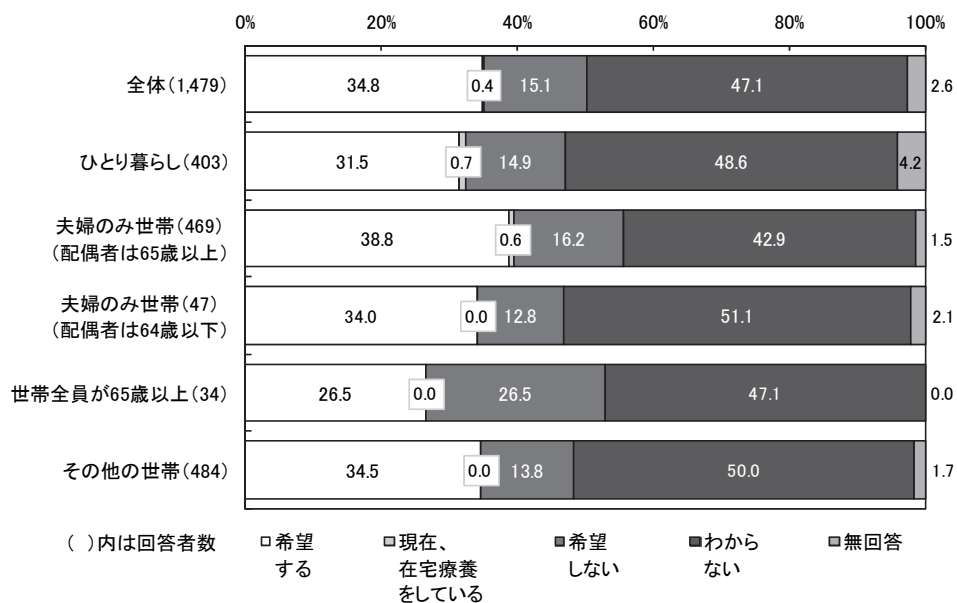
在宅療養に対する意向は、「希望する」と回答した人が34.8%である。一方、「希望しない」と回答した人は15.1%であり、「希望する」が「希望しない」を19.7ポイント上回っている。また、「わからない」と回答した人も47.1%と半数近くを占めている。

図表3-44 在宅療養に対する意向



家族構成別にみると、夫婦のみ世帯（配偶者は65歳以上）の人において、「希望する」と回答した人の割合がもっとも高いが、いずれの世帯も3割前後となっている。

図表3-45 在宅療養に対する意向



年齢別にみると、65～74歳に比べて75歳以上の年齢層に「希望する」と回答した人の割合が高くなっている。

かかりつけ医、歯科医、薬局の有無別にみると、いずれもある人のほうが「希望する」と回答した人の割合が高くなっている。

図表3-46 在宅療養に対する意向

		回答者数(人)	希望する	現在、在宅療養をしている	希望しない	わからない	無回答
全体		1,479	34.8	0.4	15.1	47.1	2.6
年齢別	65～69歳	430	30.2	0.5	14.9	52.8	1.6
	70～74歳	412	34.0	0.0	16.0	47.3	2.7
	75～79歳	335	38.8	0.6	14.6	43.3	2.7
	80～84歳	184	36.4	0.5	17.4	41.8	3.8
	85歳以上	97	39.2	1.0	9.3	47.4	3.1
かかりつけ医	あり	987	37.0	0.4	14.9	45.8	1.9
	なし	451	31.0	0.2	16.0	49.9	2.9
かかりつけ歯科医	あり	1,067	37.2	0.3	15.0	46.2	1.3
	なし	362	29.8	0.8	15.5	52.5	1.4
かかりつけ薬局	あり	781	37.1	0.8	15.2	45.1	1.8
	なし	666	32.6	0.0	15.0	51.4	1.1

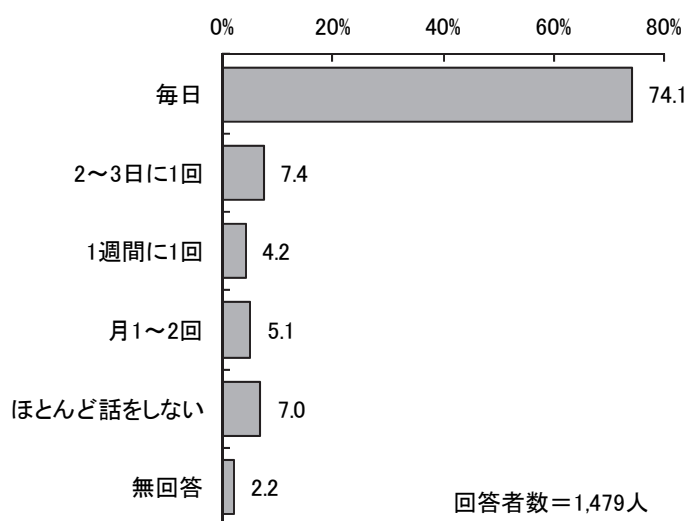
Ⅲ 日常生活や介護予防について

1 会話の頻度

問 25 あなたは、ふだん、どのくらいご家族(同居を含む)・ご親族や知人等と会話をしていますか(電話やメールを含む)。(1つに○)

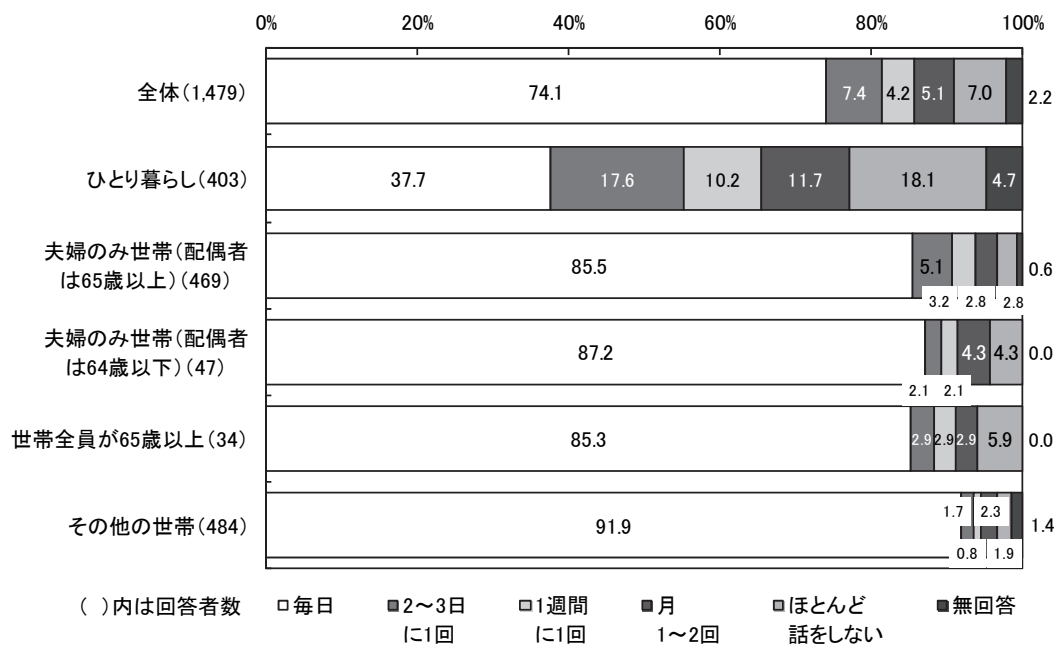
家族や親族・知人等との会話の頻度は、「毎日」と回答した人が74.1%を占めている。一方、「ほとんど話をしない」と回答した人は7.0%となっている。

図表3-47 会話の頻度



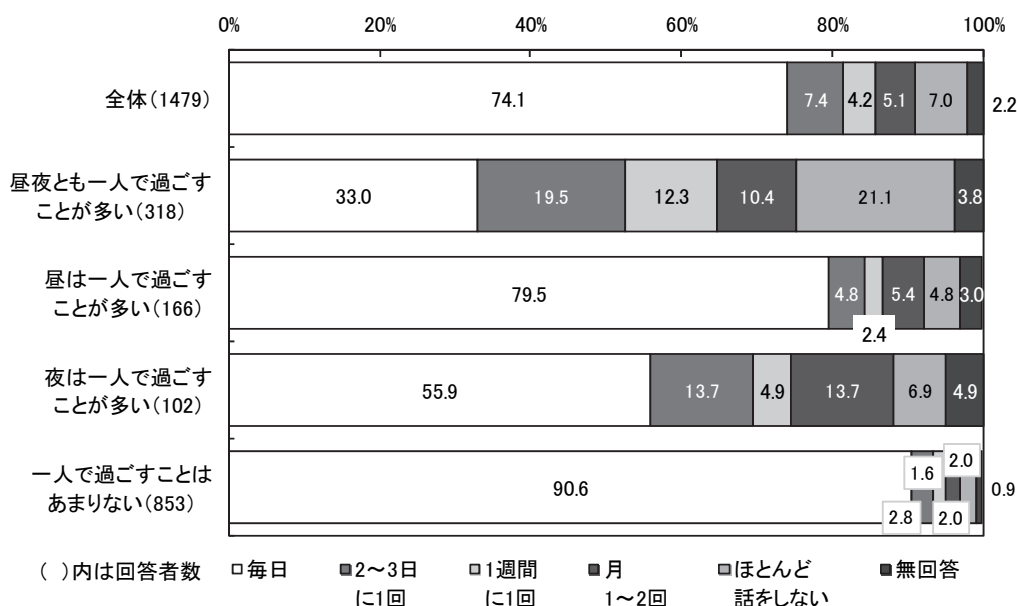
家族構成別にみると、夫婦のみ世帯（配偶者は65歳以上）の85.5%、その他の世帯の91.9%が「毎日」と回答しているのに対し、ひとり暮らしの人では37.7%であり、18.1%の人が「ほとんど話をしない」と回答している。

図表3-48 会話の頻度



日中・夜間の独居状況別にみると、昼夜とも一人で過ごすことが多い人で「毎日」会話をすると回答した人は33.0%であり、「ほとんど話をしない」と回答した人は21.1%となっている。

図表3-49 会話の頻度

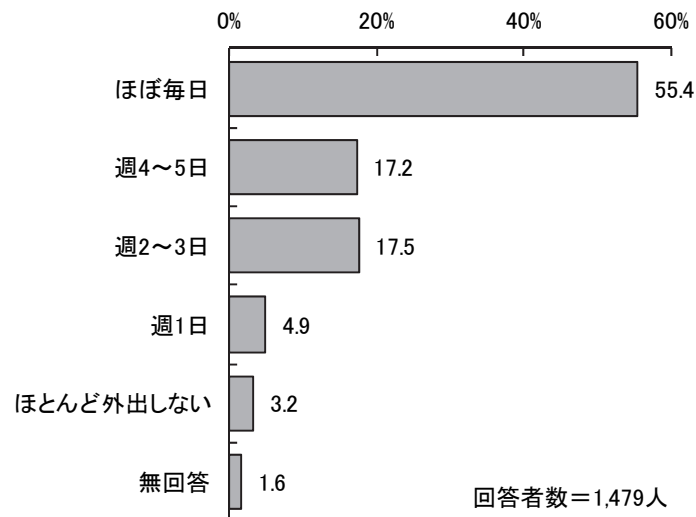


2 外出頻度

問 26 1週間でどのくらい外出しますか。(1つに○)

外出頻度は、「ほぼ毎日」が 55.4%と過半数を占めている。次いで「週 2～3 日」17.5%、「週 4～5 日」17.2%だが、「ほとんど外出しない」と回答した人も 3.2%となっている。

図表3-50 外出頻度



年齢別にみると、年齢層が高くなるほど外出頻度も低くなっており、「ほとんど外出しない」と回答した人は、85歳以上では9.3%となっている。

図表3-51 外出頻度

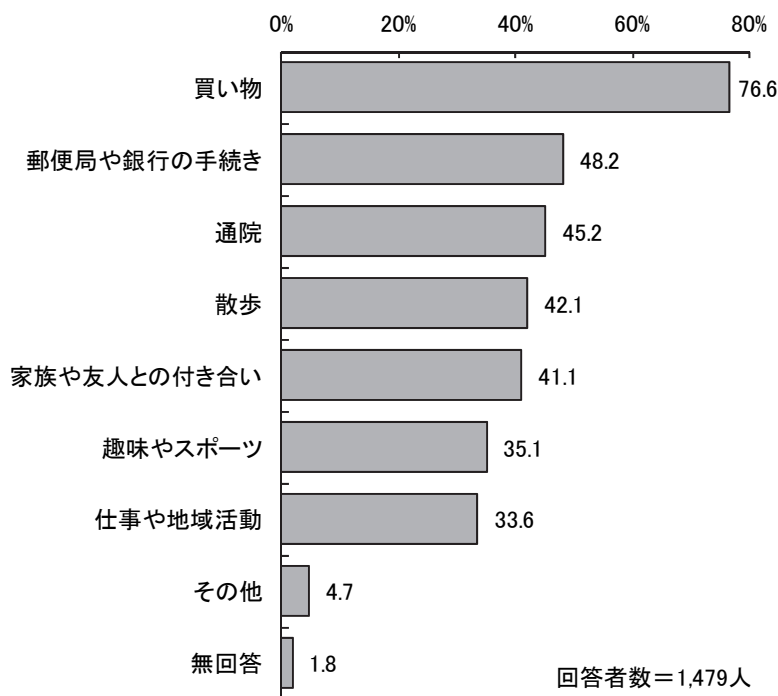
		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4～5日	週2～3日	週1日	ほとんど外出しない	無回答
全体		1,479	55.4	17.2	17.5	4.9	3.2	1.6
年齢別	65～69歳	430	60.0	16.5	14.2	5.3	2.8	1.2
	70～74歳	412	56.8	18.7	17.0	3.9	1.9	1.7
	75～79歳	335	54.3	17.3	18.2	6.3	3.0	0.9
	80～84歳	184	45.7	17.9	25.0	4.3	4.3	2.7
	85歳以上	97	47.4	14.4	20.6	5.2	9.3	3.1

3 外出目的

問 27 どのような用事で外出しますか。(あてはまるものすべてに○)

外出目的は、「買い物」が76.6%ともっとも高く、次いで「郵便局や銀行の手続き」48.2%、「通院」45.2%だが、「散歩」42.1%、「家族や友人との付き合い」41.1%、「趣味やスポーツ」35.1%、「仕事や地域活動」33.6%など、付き合いや趣味での外出も多い。

図表3-52 外出目的(複数回答)



年齢別にみると、「買い物」や「散歩」、「郵便局や銀行の手続き」に関しては、加齢による顕著な差みられないが、「仕事や地域活動」、「家族や友人との付き合い」は、年齢層が高くなるほど割合は低くなっている。

図表3-53 外出目的

		回答者数(人)	買い物	郵便局や銀行の手続き	通院	散歩	家族や友人との付き合い	趣味やスポーツ	仕事や地域活動	その他	無回答
全体		1,479	76.6	48.2	45.2	42.1	41.1	35.1	33.6	4.7	1.8
年齢別	65~69歳	430	77.7	44.4	36.5	42.8	44.7	33.5	44.7	4.2	1.6
	70~74歳	412	74.3	46.6	40.8	43.2	41.3	40.3	35.2	4.1	3.4
	75~79歳	335	78.5	49.9	50.7	41.5	41.2	35.8	31.9	4.8	0.6
	80~84歳	184	78.8	57.6	58.2	37.5	38.6	34.8	19.6	7.6	0.5
	85歳以上	97	73.2	49.5	59.8	43.3	30.9	21.6	11.3	4.1	1.0

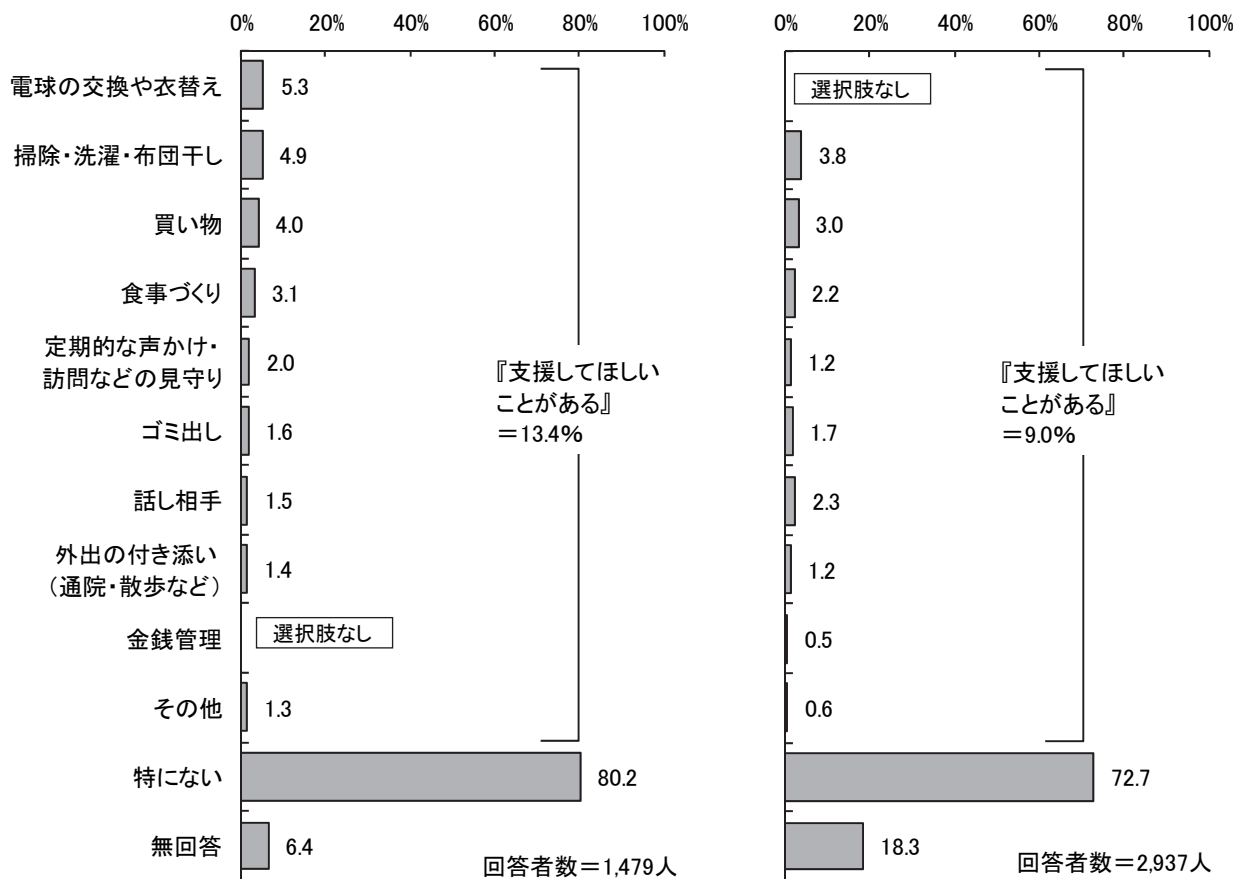
4 日常生活の中で支援してほしいこと

問 28 日常生活の中で、家族等の手助けが受けられないため、支援してほしいと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

日常生活の中で“支援してほしいことがある”人は13.4%（100%から「特にない」と「無回答」を除いた割合）であり、希望する主な支援は「電球の交換や衣替え」5.3%、「掃除・洗濯・布団干し」4.9%、「買い物」4.0%である。一方、「特にない」と回答した人は80.2%となっている。

図表3-54 日常生活の中で支援してほしいこと(複数回答)

<前回調査>



※ 『支援してほしいことがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて支援を望む人の割合も高くなっている。

家族構成別にみると、ひとり暮らしの人では「特にない」と回答した人が 67.7%であり、他に比べて支援を望む人の割合が高くなっている。

居住地域別にみると、蔵前地区は“支援してほしいことがある”人が 16.0%ともっとも高い割合となっている。

図表3-55 日常生活の中で支援してほしいこと

		回答者数(人)	電球の交換や衣替え	掃除・洗濯・布団干し	買い物	食事づくり	定期的な声かけ・訪問などの見守り	ゴミ出し	話し相手	散歩など)	外出の付き添い(通院・その他	特にない	無回答	『支援してほしい』がある』
全体		1,479	5.3	4.9	4.0	3.1	2.0	1.6	1.5	1.4	1.3	80.2	6.4	13.4
年齢別	65～69歳	430	4.0	3.7	4.4	2.8	1.6	1.4	0.9	0.7	1.6	83.3	6.0	10.7
	70～74歳	412	3.4	3.2	2.2	2.7	1.2	0.7	0.7	0.7	0.7	84.0	6.6	9.4
	75～79歳	335	6.9	5.1	4.5	2.1	2.4	2.1	2.4	2.1	1.2	78.5	5.7	15.8
	80～84歳	184	7.6	8.2	5.4	4.3	3.3	2.7	1.6	2.7	1.6	73.9	7.6	18.5
	85歳以上	97	10.3	11.3	6.2	8.2	3.1	3.1	3.1	2.1	2.1	70.1	5.2	24.7
家族構成別	ひとり暮らし	403	10.4	8.2	7.4	5.7	4.0	2.5	4.0	2.2	2.5	67.7	6.9	25.4
	夫婦のみ世帯 (配偶者は65歳以上)	469	4.1	4.5	3.0	1.9	1.3	0.9	0.6	0.4	0.9	81.9	6.8	11.3
	夫婦のみ世帯 (配偶者は64歳以下)	47	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	93.6	4.3	2.1
	世帯全員が65歳以上	34	0.0	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	88.2	5.9	5.9
	その他の世帯	484	3.5	3.5	2.5	2.7	1.4	1.7	0.6	1.2	0.6	88.2	4.5	7.3
居住地域別	谷中地区	137	6.6	3.6	2.2	3.6	2.2	2.2	0.7	0.7	0.0	79.6	7.3	13.1
	台東地区	211	5.7	4.3	4.3	1.9	1.4	1.4	1.9	0.9	1.9	81.5	5.7	12.8
	蔵前地区	237	8.4	5.5	5.5	2.5	1.7	1.3	1.3	1.3	1.7	81.9	2.1	16.0
	浅草地区	234	5.6	7.3	3.4	4.7	3.8	3.0	1.7	1.7	0.9	79.9	6.0	14.1
	三ノ輪地区	203	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	0.5	1.5	0.5	2.5	79.8	10.3	9.9
	松が谷地区	254	4.3	4.3	3.9	2.4	0.8	0.4	1.2	0.8	1.2	81.1	6.7	12.2
	清川地区	179	5.0	7.3	6.1	4.5	2.8	2.8	2.2	3.4	0.6	78.2	6.1	15.7

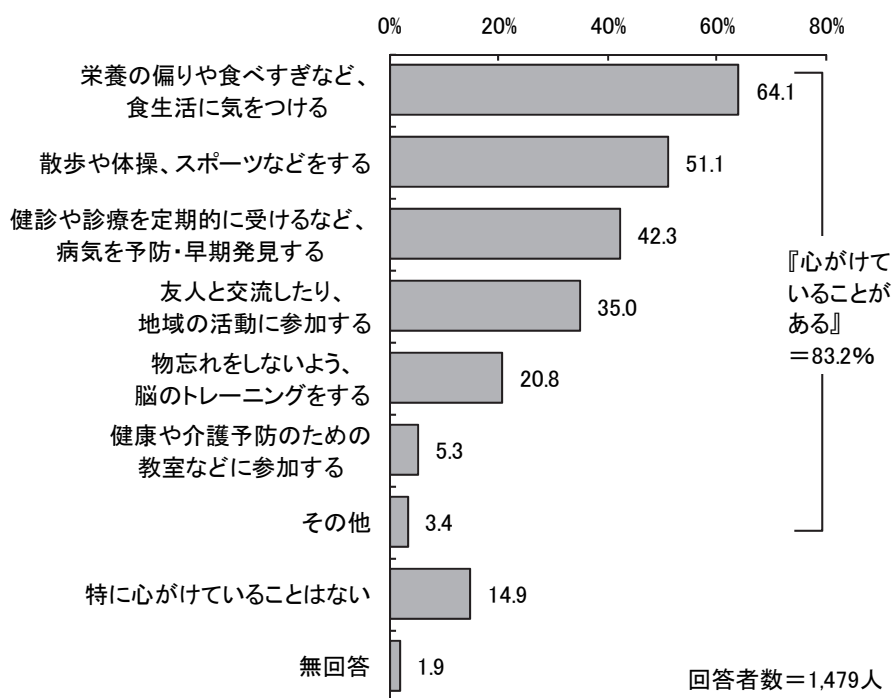
※ 『支援してほしいことがある』=100%－「特にない」－「無回答」

5 介護予防のために心がけていること

問 29 介護が必要にならないように、日ごろから心がけていることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

介護予防のために“心がけていることがある”(100%から「特に心がけていることはない」と「無回答」を除いた割合)と回答した人は、全体の83.2%であり、介護予防に対する意識が高いことがうかがえる。内容としては、「栄養の偏りや食べすぎなど、食生活に気をつける」64.1%、「散歩や体操、スポーツなどをする」51.1%、「健診や診療を定期的に受けるなど、病気を予防・早期発見する」42.3%などとなっている。

図表3-56 介護予防のために心がけていること(複数回答)



※ 『心がけていることがある』 = 100% - 「特に心がけていることはない」 - 「無回答」

年齢別にみると、“心がけていることがある”と回答した割合がもっとも高いのは80～84歳で88.0%、もっとも低いのは65～69歳で80.7%となっている。80～84歳では「友人と交流したり、地域の活動に参加する」と「物忘れをしないよう、脳のトレーニングをする」と回答した人が、他の年齢層に比べて高い割合となっている。

図表3-57 介護予防のために心がけていること

		回答者数(人)	栄養の偏りや食べすぎなど、食生活に気をつける	散歩や体操、スポーツなどをする	健診や診療を定期的に受けるなど、病気を予防・早期発見する	友人と交流したり、地域の活動に参加する	物忘れをしないよう、脳のトレーニングをする	健康や介護予防のための教室などに参加する	その他	特に心がけていることはない	無回答	『心がけていることがある』
全体		1,479	64.1	51.1	42.3	35.0	20.8	5.3	3.4	14.9	1.9	83.2
年齢別	65～69歳	430	61.9	50.5	40.5	33.7	14.7	3.5	2.8	17.9	1.4	80.7
	70～74歳	412	65.5	56.8	37.1	35.0	19.9	3.6	3.2	15.3	3.4	81.3
	75～79歳	335	64.5	50.7	47.8	37.3	23.9	7.5	3.6	12.8	0.9	86.3
	80～84歳	184	65.2	46.2	46.7	40.8	29.9	9.2	4.3	10.9	1.1	88.0
	85歳以上	97	68.0	42.3	49.5	24.7	25.8	7.2	3.1	13.4	0.0	86.6

※ 『心がけていることがある』 = 100% - 「特に心がけていることはない」 - 「無回答」

6 参加したい介護予防教室

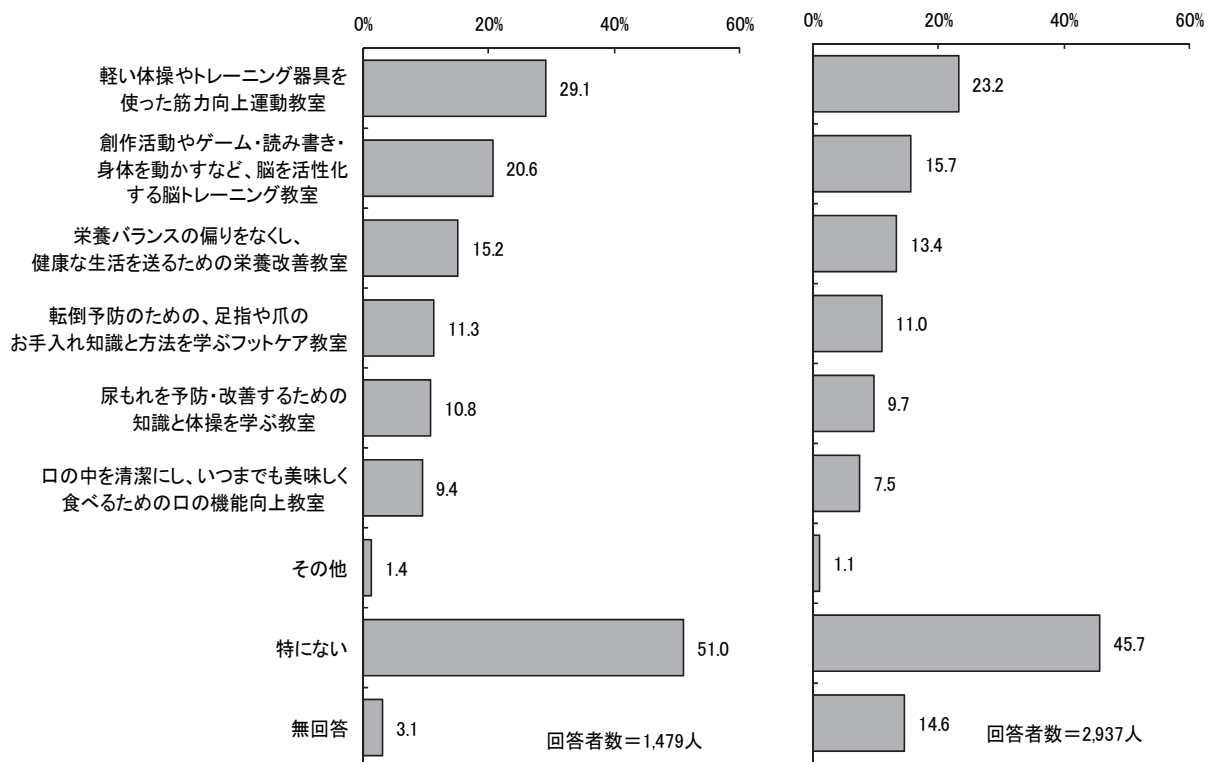
問 30 区では「介護予防教室」を行っています。次のうち、あなたが参加したいと思うものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

参加したい介護予防教室は、「軽い体操やトレーニング器具を使った筋力向上運動教室」29.1%、「創作活動やゲーム・読み書き・身体を動かすなど、脳を活性化させる脳トレーニング教室」20.6%、「栄養バランスの偏りをなくし、健康な生活を送るための栄養改善教室」15.2%などとなっている。

前回調査と比較すると、どの教室についても今回調査のほうが割合は高く、「軽い体操やトレーニング器具を使った筋力向上運動教室」は5.9ポイント高くなっている。

図表3-58 参加したい介護予防教室(複数回答)

<前回調査>

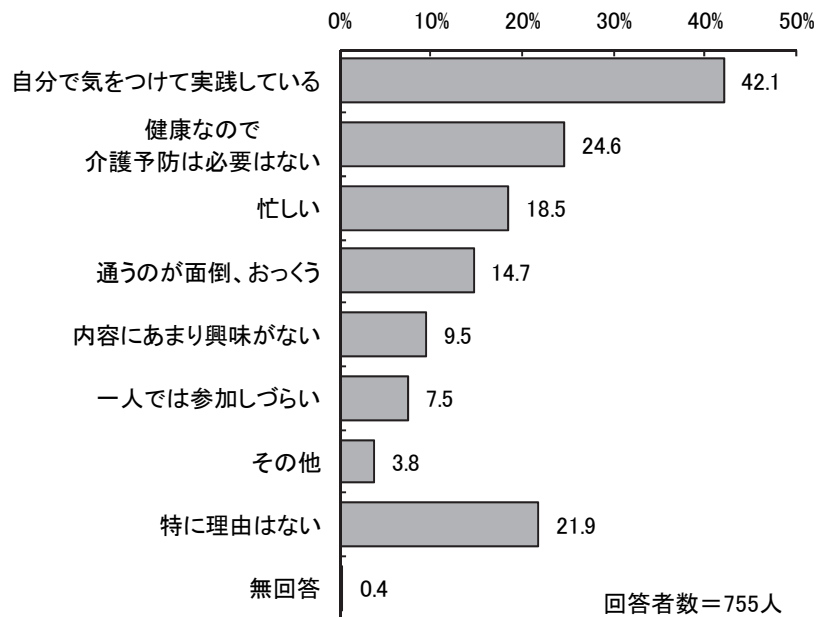


7 参加したいと思わない理由

問 30-1 問 30 で「特にない」に○をした方におうかがいします。介護予防教室に参加したいと思わない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

参加したいと思わない理由は、「自分で気をつけて実践している」が42.1%ともっと高く、次いで「健康なので介護予防は必要はない」24.6%、「忙しい」18.5%、「通うのが面倒、おっくう」14.7%などとなっている。

図表3-59 参加したいと思わない理由(複数回答)



年齢別にみると、年齢層にかかわらず、「自分で気をつけて実践している」がもっとも高い。次いで、65～79歳では「健康なので介護予防は必要はない」、80～84歳では「通うのが面倒、おっくう」、85歳以上では「一人では参加しづらい」が高い割合となっている。

図表3-60 参加したいと思わない理由

		回答者数(人)	自分で気をつけて実践している	健康なので介護予防は必要はない	忙しい	通うのが面倒、おっくう	内容にあまり興味がない	一人では参加しづらい	その他	特に理由はない	無回答
全体		755	42.1	24.6	18.5	14.7	9.5	7.5	3.8	21.9	0.4
年齢別	65～69歳	226	42.5	27.0	17.7	13.7	9.3	6.2	2.2	20.4	1.3
	70～74歳	199	41.7	31.7	22.1	13.6	11.6	7.0	4.0	20.6	0.0
	75～79歳	152	36.8	23.0	20.4	13.8	8.6	4.6	5.3	22.4	0.0
	80～84歳	106	46.2	16.0	16.0	19.8	7.5	11.3	2.8	22.6	0.0
	85歳以上	57	45.6	15.8	10.5	14.0	8.8	17.5	8.8	26.3	0.0

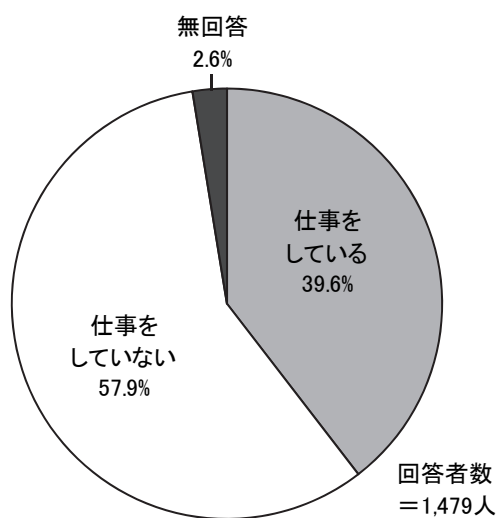
IV 社会参加や地域とのかかわりについて

1 就労状況

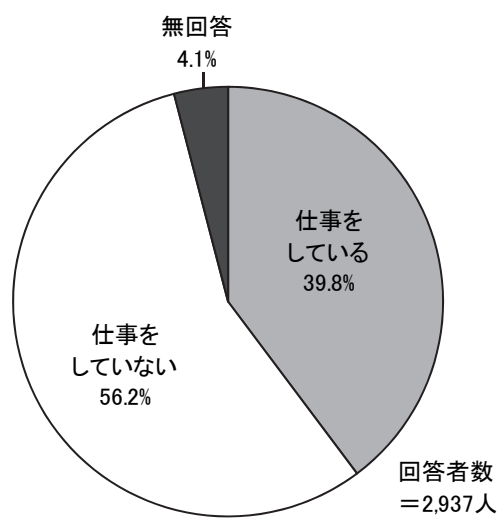
問 31 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

「仕事をしている」と回答した人は 39.6%であり、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

図表3-61 就労状況



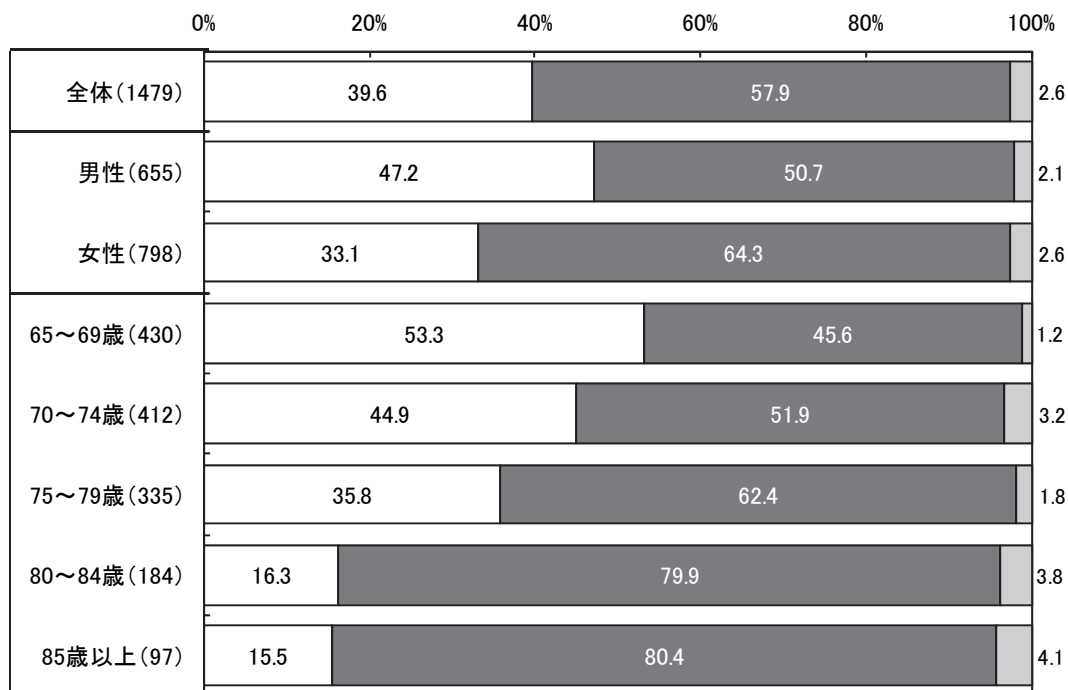
<前回調査>



性別にみると、仕事をしている人の割合は、男性が 47.2%、女性は 33.1%となっている。

年齢別にみると、年齢層が低いほど仕事をしている人の割合が高く、65～69 歳では 53.3%、75～79 歳では 35.8%、85 歳以上では 15.5%となっている。

図表3-62 就労状況



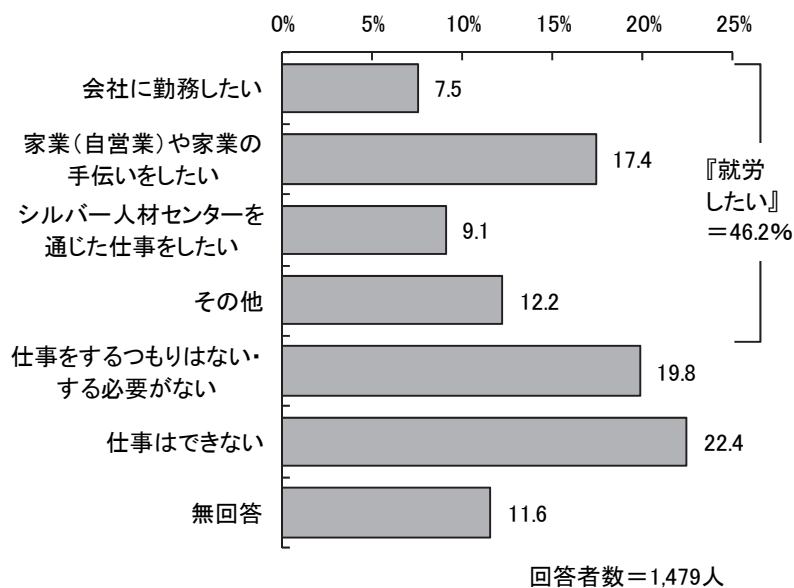
()内は回答者数 □仕事をしている ■仕事をしていない □無回答

2 就労意向

問 32 今後、仕事をしたい、または、続けたいと思いますか。(1つに○)

就労意向を示している人は46.2%（「会社に勤務したい」、「家業（自営業）や家業の手伝いをしたい」、「シルバー人材センターを通じた仕事をしたい」、「その他」をあわせた割合）であり、就労形態としては、「家業（自営業）や家業の手伝いをしたい」17.4%に次いで、「シルバー人材センターを通じた仕事をしたい」9.1%、「会社に勤務したい」7.5%となっている。

図表3-63 就労意向

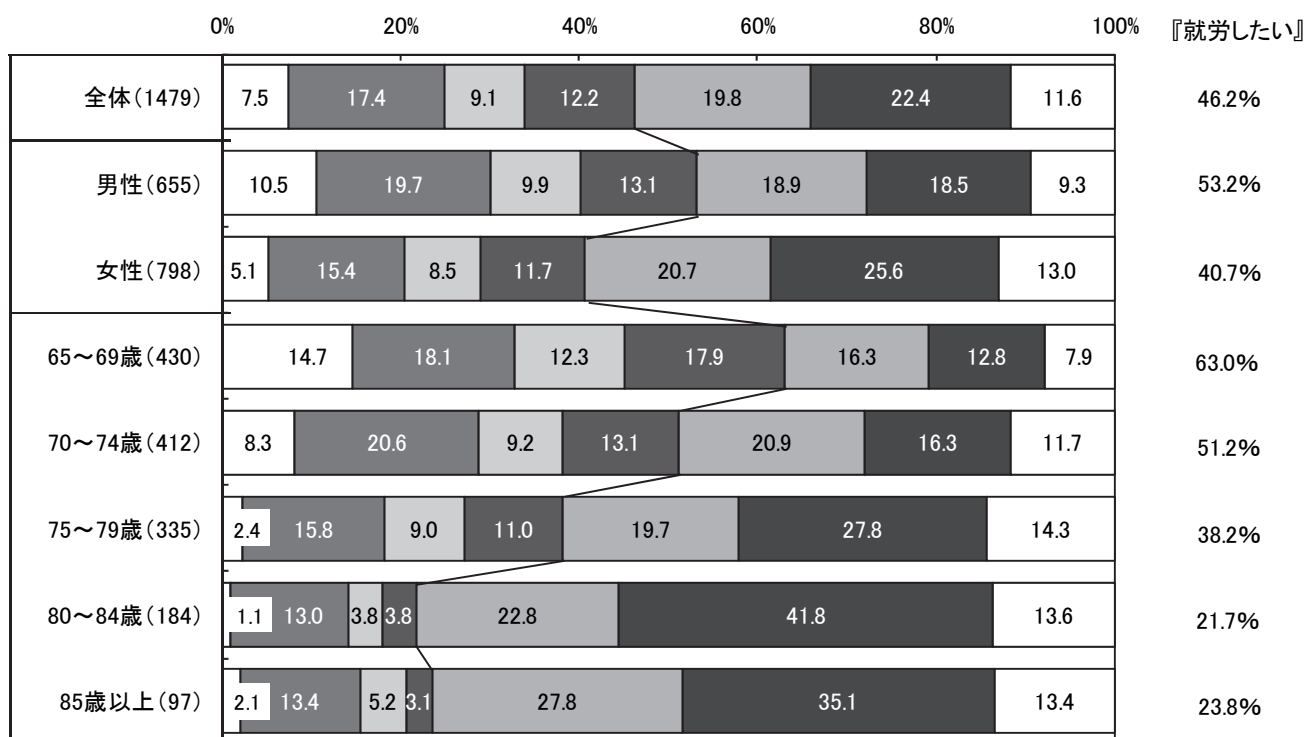


※ 『就労したい』 = 「会社に勤務したい」 + 「家業（自営業）や家業の手伝いをしたい」
+ 「シルバー人材センターを通じた仕事をしたい」 + 「その他」

性別にみると、就労意向を示した人の割合は、男性 53.2%、女性 40.7%であり、仕事をしている人（63 ページ参照）に比べて男性は 6.0 ポイント、女性は 7.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、65～69 歳が 63.0%、75～79 歳が 38.2%、85 歳以上が 23.8%と低くなっていくが、「家業（自営業）や家業の手伝いをしたい」と回答した人は 85 歳以上でも 13.4%となっている。

図表3-64 就労意向



()内は回答者数
 □会社勤務したい ■家業(自営業)や家業の手伝いをしたい □シルバー人材センターを通じた仕事をしたい ■その他
 □仕事をするつもりはない ■仕事はできない □無回答

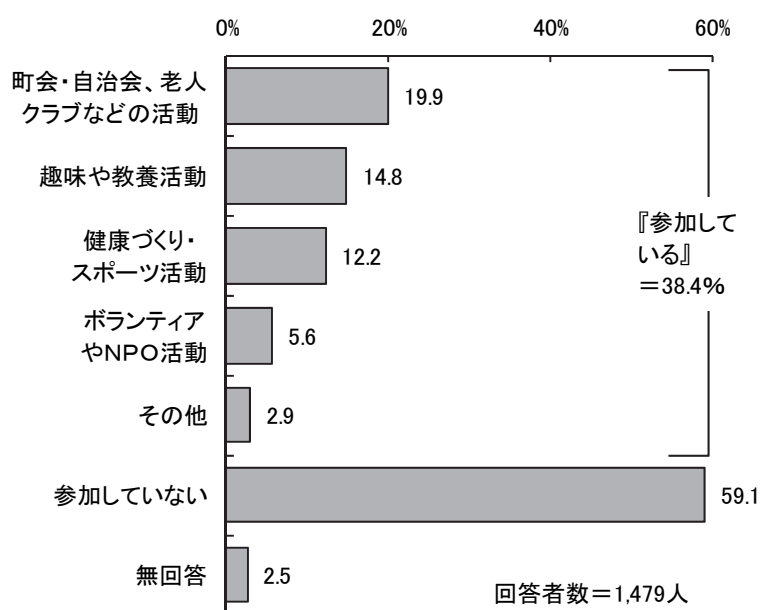
※ 『就労したい』 = 「会社勤務したい」 + 「家業（自営業）や家業の手伝いをしたい」 + 「シルバー人材センターを通じた仕事をしたい」 + 「その他」

3 地域活動状況

問 33 現在、参加している地域活動や講座はありますか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動状況については、38.4%が“参加している”(100%から「参加していない」と「無回答」を除いた割合)と回答している。具体的には、「町会・自治会、老人クラブなどの活動」19.9%、「趣味や教養活動」が14.8%、「健康づくり・スポーツ活動」12.2%、「ボランティアやNPO活動」5.6%となっている。

図表3-65 地域活動状況(複数回答)



※ 『参加している』 = 100% - 「参加していない」 - 「無回答」

性別にみると、「参加していない」割合は、男性 63.8%と、女性 55.0%に比べて高くなっている。

年齢別にみると、「参加していない」割合がもっとも高いのは、65～69歳の年齢層である。「健康づくり・スポーツ活動」、「町会・自治会、老人クラブなどの活動」及び「ボランティアやNPO活動」に参加している人の割合は、いずれも80～84歳の年齢層がもっとも高くなっている。

困ったときに頼れる人の有無別にみると、頼れる人がいない人は「参加していない」割合が73.9%と、他に比べて高くなっている。

会話の頻度別にみると、会話の頻度が少ないほど「参加していない」割合が高く、ほとんど話をしない人では78.6%となっている。

図表3-66 地域活動状況

		回答者数(人)	町会・自治会、老人クラブなどの活動	趣味や教養活動	健康づくり・スポーツ活動	ボランティアやNPO活動	その他	参加していない	無回答	『参加している』
全体		1,479	19.9	14.8	12.2	5.6	2.9	59.1	2.5	38.4
性別	男性	655	19.7	9.9	8.5	4.1	1.8	63.8	2.1	34.1
	女性	798	20.3	19.3	14.9	7.0	3.9	55.0	2.6	42.4
年齢別	65～69歳	430	15.6	12.1	11.9	4.7	3.0	64.7	0.9	34.4
	70～74歳	412	19.4	16.3	12.1	6.6	2.4	58.3	2.2	39.5
	75～79歳	335	23.6	20.3	12.5	5.1	3.6	53.1	2.4	44.5
	80～84歳	184	24.5	12.0	13.6	8.7	2.2	56.5	6.0	37.5
	85歳以上	97	19.6	9.3	11.3	1.0	4.1	63.9	3.1	33.0
頼れる人の有無別	同居している・近所に住んでいる	877	23.1	15.4	13.5	6.4	3.1	55.8	1.9	42.3
	同居・近所ではないが、行き来できる所にいる	351	18.5	16.5	11.7	4.8	2.6	60.4	2.0	37.6
	いるが、行き来できる所には住んでいない	103	15.5	15.5	12.6	5.8	2.9	65.0	1.9	33.1
	いない	115	5.2	7.8	2.6	3.5	3.5	73.9	7.0	19.1
会話の頻度別	毎日	1096	23.1	15.3	13.5	5.9	3.3	55.9	1.8	42.3
	2～3日に1回	110	18.2	17.3	12.7	6.4	1.8	60.0	1.8	38.2
	1週間に1回	62	11.3	19.4	11.3	3.2	1.6	67.7	0.0	32.3
	月1～2回	76	6.6	9.2	6.6	3.9	1.3	69.7	6.6	23.7
	ほとんど話をしない	103	4.9	8.7	3.9	3.9	2.9	78.6	3.9	17.5

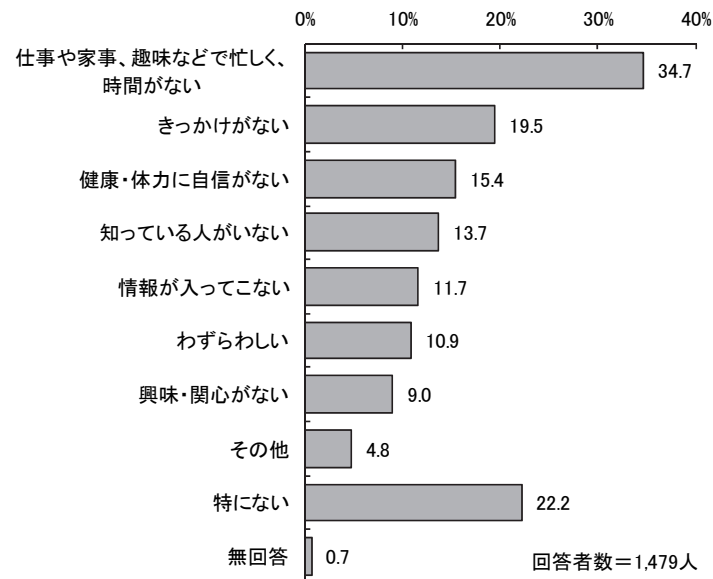
※『参加している』=100%－「参加していない」－「無回答」

4 地域活動に参加していない理由

問 33-1 問 33 で「参加していない」に○をした方におうかがいします。地域活動や講座に参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動に参加していない理由は、「仕事や家事、趣味などで忙しく、時間がない」が 34.7%と最も高く、次いで「きっかけがない」19.5%、「健康・体力に自信がない」15.4%、「知っている人がいない」13.7%などとなっている。

図表3-67 地域活動に参加していない理由(複数回答)



年齢別にみると、65～79 歳は「仕事や家事、趣味などで忙しく、時間がない」、「きっかけがない」の順に割合が高くなっている。80～84 歳は「仕事や家事、趣味などで忙しく、時間がない」に次いで「健康・体力に自信がない」の割合が高く、85 歳以上は「健康・体力に自信がない」が最も高くなっている。

図表3-68 地域活動に参加していない理由

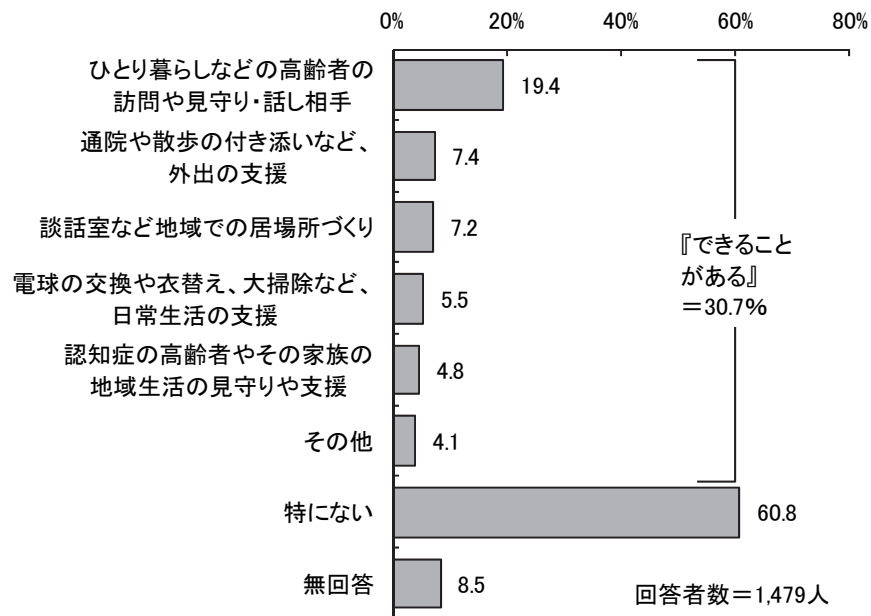
年齢別		回答者数(人)	仕事や家事、趣味などで忙しく、時間がない	きっかけがない	健康・体力に自信がない	知っている人がいない	情報が入ってこない	わずらわしい	興味・関心がない	その他	特になし	無回答
	全体	874	34.7	19.5	15.4	13.7	11.7	10.9	9.0	4.8	22.2	0.7
年齢別	65～69 歳	278	43.2	19.4	13.3	14.7	13.7	11.2	6.8	6.8	16.2	0.0
	70～74 歳	240	36.3	20.0	9.6	15.8	11.7	10.8	8.8	4.2	22.1	1.3
	75～79 歳	178	32.6	23.0	21.3	10.1	11.8	11.2	8.4	4.5	21.9	0.6
	80～84 歳	104	23.1	16.3	19.2	13.5	10.6	9.6	14.4	2.9	29.8	1.0
	85 歳以上	62	17.7	12.9	24.2	14.5	4.8	11.3	11.3	3.2	35.5	1.6

5 支援が必要な高齢者のために自身ができること

問 34 支援が必要な高齢者のために、地域での福祉の担い手として、あなた自身ができることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

支援が必要な高齢者のために自身ができることについて、「特にない」と回答した人は60.8%であり、30.7%の人が“できることがある”(100%から「特にない」と「無回答」を除いた割合)と回答している。具体的にできることとしては、「ひとり暮らしなどの高齢者の訪問や見守り・話し相手」19.4%、「通院や散歩の付き添いなど、外出の支援」7.4%、「談話室など地域での居場所づくり」7.2%などとなっている。

図表3-69 支援が必要な高齢者のために自身ができること(複数回答)



※ 『できることがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

年齢別にみると、年齢層が低いほど“できることがある”と回答した人の割合が高く、65～69歳では37.5%、70～74歳では33.0%となっている。

居住地域別にみると“できることがある”と回答した人の割合は、谷中地区が39.4%ともっとも高く、次いで蔵前地区36.3%、松が谷地区33.5%、三ノ輪地区31.5%となっている。

図表3-70 支援が必要な高齢者のために自身ができること

		回答者数(人)	ひとり暮らしなどの高齢者の訪問や見守り・話し相手	通院や散歩の付き添いなど、外出の支援	談話室など地域での居場所づくり	電球の交換や衣替え、大掃除など、日常生活の支援	認知症の高齢者やその家族の地域生活の見守りや支援	その他	特にない	無回答	『できることがある』
全体		1,479	19.4	7.4	7.2	5.5	4.8	4.1	60.8	8.5	30.7
年齢別	65～69歳	430	21.2	10.2	8.8	8.1	5.1	5.6	56.0	6.5	37.5
	70～74歳	412	20.6	8.3	7.8	6.8	5.8	3.6	59.5	7.5	33.0
	75～79歳	335	20.3	6.9	7.8	4.2	5.1	2.1	61.5	9.3	29.2
	80～84歳	184	17.9	3.3	4.3	1.6	3.8	5.4	65.2	10.3	24.5
	85歳以上	97	7.2	1.0	0.0	1.0	0.0	4.1	77.3	11.3	11.4
居住地域別	谷中地区	137	24.1	8.0	8.0	9.5	6.6	5.1	52.6	8.0	39.4
	台東地区	211	19.4	6.6	9.5	3.3	5.7	2.4	63.0	7.6	29.4
	蔵前地区	237	20.3	6.8	9.7	4.2	3.8	4.2	55.7	8.0	36.3
	浅草地区	234	17.5	6.4	6.0	3.0	2.6	2.6	69.7	5.1	25.2
	三ノ輪地区	203	22.2	10.3	8.9	7.9	5.4	4.9	59.6	8.9	31.5
	松が谷地区	254	20.5	9.8	6.3	7.5	7.5	6.3	56.3	10.2	33.5
	清川地区	179	14.5	4.5	2.2	4.5	2.2	2.8	66.5	11.2	22.3

※ 『できることがある』=100%－「特にない」－「無回答」

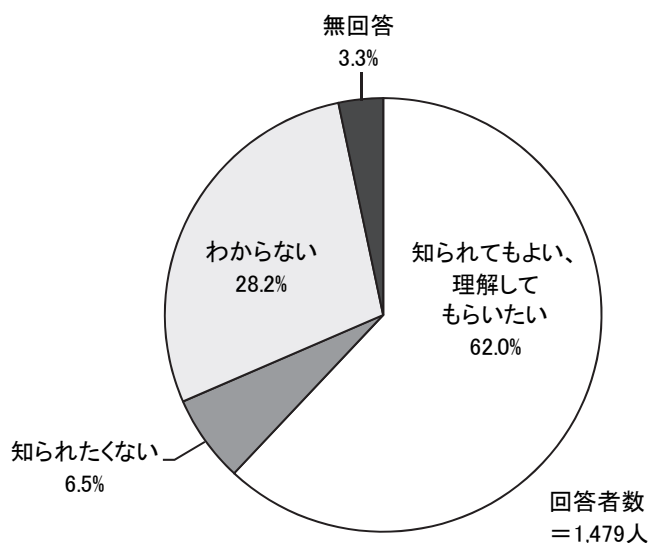
V 認知症や権利擁護について

1 認知症を周囲に知られることに対する意向

問 35 あなたやご家族が認知症になった場合、周囲に知られてもよいと思いますか。
(1つに○)

認知症を周囲に「知られてもよい、理解してもらいたい」と回答した人は62.0%、「知られたくない」と回答した人は6.5%となっている。

図表3-71 認知症を周囲に知られることに対する意向



図表3-72 認知症を周囲に知られることに対する意向

		回答者数(人)	知られてもよい、理解してもらいたい	知られたくない	わからない	無回答
全体		1,479	62.0	6.5	28.2	3.3
性別	男性	655	57.3	8.1	30.5	4.1
	女性	798	66.0	5.4	26.1	2.5
年齢別	65～69歳	430	64.4	5.6	28.1	1.9
	70～74歳	412	65.0	5.6	26.5	2.9
	75～79歳	335	61.5	4.5	29.6	4.5
	80～84歳	184	59.8	10.3	26.1	3.8
	85歳以上	97	49.5	11.3	34.0	5.2

性別にみると、「知られてもよい、理解してもらいたい」と回答した人は男性 57.3%、女性 66.0%と女性の方が高くなっている。

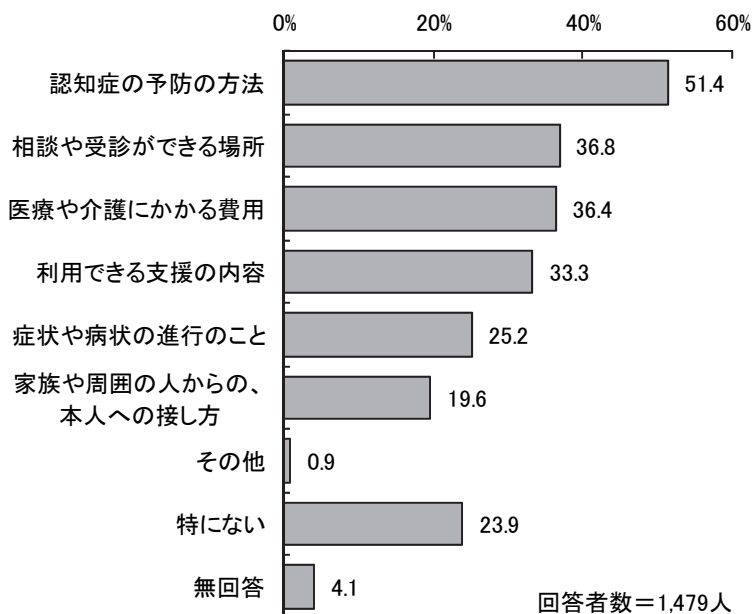
年齢別にみると、年齢層が低い層に「知られてもよい、理解してもらいたい」と回答した人の割合が高く、65～69歳では64.4%、70～74歳では65.0%となっている。

2 認知症に関して気になること

問 36 認知症に関して、気になることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

認知症に関して気になることは、「認知症の予防の方法」が 51.4%と最も高く、次いで「相談や受診ができる場所」36.8%、「医療や介護にかかる費用」36.4%、「利用できる支援の内容」33.3%となっている。

図表3-73 認知症に関して気になること(複数回答)



年齢別にみると、年齢層にかかわらず「認知症の予防の方法」が最も高い。次いで、65～79歳の人では「相談や受診ができる場所」、80歳以上の人では「医療や介護にかかる費用」が高い割合となっている。

図表3-74 認知症に関して気になること

		回答者数(人)	認知症の予防の方法	相談や受診ができる場所	医療や介護にかかる費用	利用できる支援の内容	症状や病状の進行のこと	家族や周囲の人からの、本人への接し方	その他	特にない	無回答
全体		1,479	51.4	36.8	36.4	33.3	25.2	19.6	0.9	23.9	4.1
年齢別	65～69歳	430	50.9	41.9	40.2	40.0	31.6	23.3	1.4	23.5	1.9
	70～74歳	412	52.2	37.9	35.9	36.9	25.0	18.7	0.5	23.8	3.6
	75～79歳	335	57.9	38.5	36.1	31.3	23.3	21.8	0.3	21.8	3.6
	80～84歳	184	46.2	28.8	31.5	21.2	21.7	13.0	2.2	25.5	7.6
	85歳以上	97	42.3	22.7	32.0	21.6	11.3	12.4	1.0	29.9	9.3

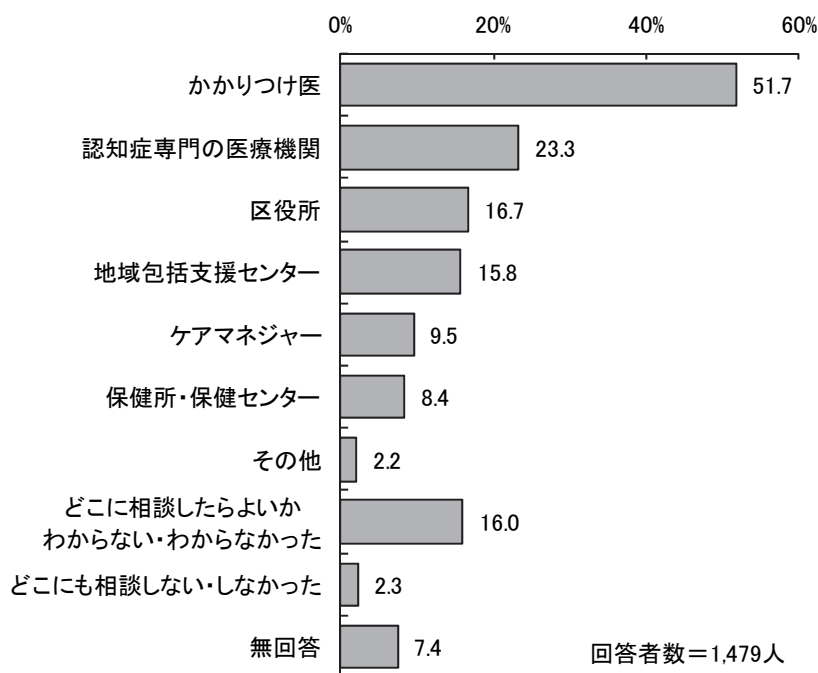
3 認知症に関する相談場所

問 37 あなたやご家族に認知症の不安が生じた場合、どこに相談しますか・しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

認知症に関する相談場所は、「かかりつけ医」が51.7%ともっとも高く、次いで「認知症専門の医療機関」23.3%、「地域包括支援センター」15.8%となっている。

一方、「どこに相談したらよいかわからない・わからなかった」と回答した人は16.0%となっている。

図表3-75 認知症に関する相談場所(複数回答)



家族構成別にみると、ひとり暮らしの人では「どこに相談したらよいかわからない・わからなかった」と回答した人が 18.6%と他に比べて高い割合となっている。また、相談場所としては「かかりつけ医」41.4%に次いで「区役所」19.6%となっている。

居住地域別にみると、「どこに相談したらよいかわからない・わからなかった」と回答した人の割合は、他に比べて浅草地区、三ノ輪地区及び清川地区において高くなっている。

図表3-76 認知症に関する相談場所

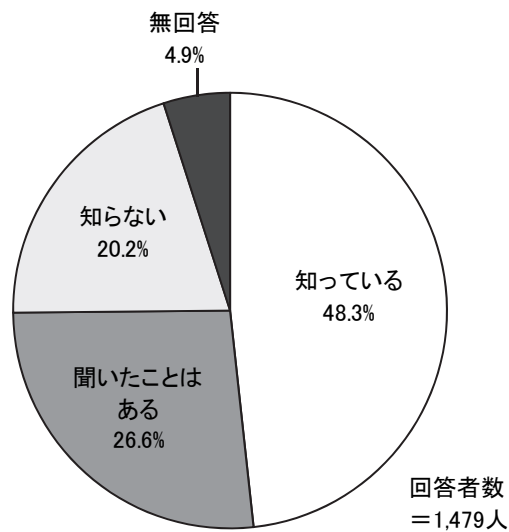
		回答者数(人)	かかりつけ医	認知症専門の医療機関	区役所	地域包括支援センター	ケアマネジャー	保健所・保健センター	その他	どこに相談したらよいかわからない・わからなかった	どこにも相談しない・しなかった	無回答
全体		1,479	51.7	23.3	16.7	15.8	9.5	8.4	2.2	16.0	2.3	7.4
家族構成別	ひとり暮らし	403	41.4	16.6	19.6	12.7	8.7	5.7	2.7	18.6	3.5	12.4
	夫婦のみ世帯 (配偶者は65歳以上)	469	57.4	30.5	18.6	18.8	10.0	10.4	1.1	13.9	1.9	4.9
	夫婦のみ世帯 (配偶者は64歳以下)	47	46.8	21.3	19.1	23.4	23.4	17.0	4.3	14.9	0.0	8.5
	世帯全員が65歳以上	34	47.1	17.6	8.8	17.6	23.5	11.8	8.8	11.8	0.0	11.8
	その他の世帯	484	57.2	23.8	13.4	15.3	8.3	8.3	2.3	16.1	1.4	4.5
居住地域別	谷中地区	137	56.2	29.2	18.2	21.2	12.4	8.8	3.6	10.2	1.5	3.6
	台東地区	211	55.9	27.0	18.5	14.7	10.4	8.5	2.8	12.3	1.4	6.6
	蔵前地区	237	53.2	22.4	13.9	13.1	8.9	7.6	2.1	16.9	3.0	6.8
	浅草地区	234	50.9	23.1	12.8	16.7	6.4	7.7	1.7	19.7	2.6	7.7
	三ノ輪地区	203	47.3	23.2	16.3	19.2	10.3	7.4	2.0	19.2	2.0	6.9
	松が谷地区	254	56.3	23.6	20.1	14.6	11.0	12.2	2.4	14.6	1.6	6.7
	清川地区	179	42.5	16.8	17.3	14.0	8.4	5.0	1.1	17.9	3.9	12.3

4 成年後見制度の認知度

問 38 認知症などにより判断能力が十分でない人に、本人の権利を守るための援助者を選び、不動産や預貯金などを管理し、施設への入所に関する契約などを支援する「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○)

成年後見制度を、「知っている」または「聞いたことがある」と回答した人は74.9%であり、「知らない」と回答した人は20.2%となっている。

図表3-77 成年後見制度の認知度



年齢別にみると、「知っている」と回答した人は75～79歳で49.6%ともっとも高く、「知らない」と回答した人は85歳以上で25.8%ともっとも高くなっている。

図表3-78 成年後見制度の認知度

		回答者数(人)	知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		1,479	48.3	26.6	20.2	4.9
年齢別	65～69歳	430	49.3	27.4	21.9	1.4
	70～74歳	412	49.5	26.2	17.7	6.6
	75～79歳	335	49.6	25.7	19.1	5.7
	80～84歳	184	45.7	28.3	20.1	6.0
	85歳以上	97	43.3	23.7	25.8	7.2

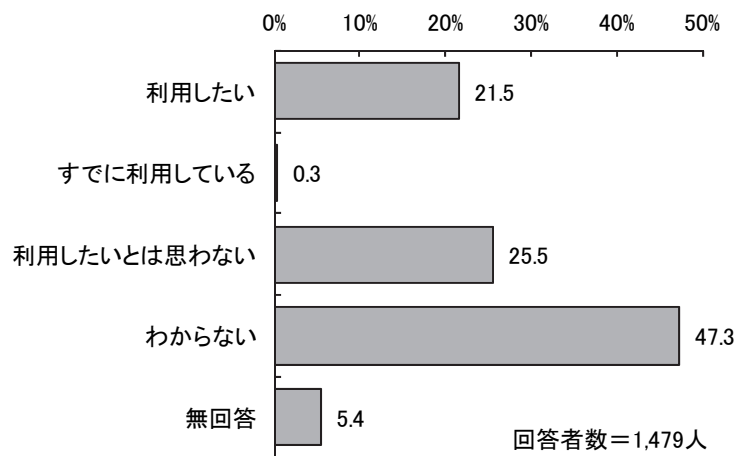
5 成年後見制度の利用意向

問 39 あなたやご家族が、認知症などにより判断能力が十分でなくなってきた場合に、「成年後見制度」を利用したいと思いませんか。(1つに○)

成年後見制度の利用意向については、「利用したい」と回答した人が 21.5%である。

一方、「利用したいとは思わない」と回答した人は 25.5%であり、「わからない」と回答した人も 47.3%となっている。

図表3-79 成年後見制度の利用意向



年齢別にみると、「利用したい」と回答した人の割合は、他に比べて 65～69 歳及び 75～79 歳の年齢層において高くなっている。

図表3-80 成年後見制度の利用意向

		回答者数(人)	利用したい	すでに利用している	ない 利用したいとは思わ	わからない	無回答
全体		1,479	21.5	0.3	25.5	47.3	5.4
年齢別	65～69 歳	430	24.0	0.2	21.4	52.3	2.1
	70～74 歳	412	20.1	0.2	26.9	47.8	4.9
	75～79 歳	335	24.5	0.3	26.0	42.1	7.2
	80～84 歳	184	19.6	1.1	29.9	41.8	7.6
	85 歳以上	97	8.2	0.0	28.9	52.6	10.3

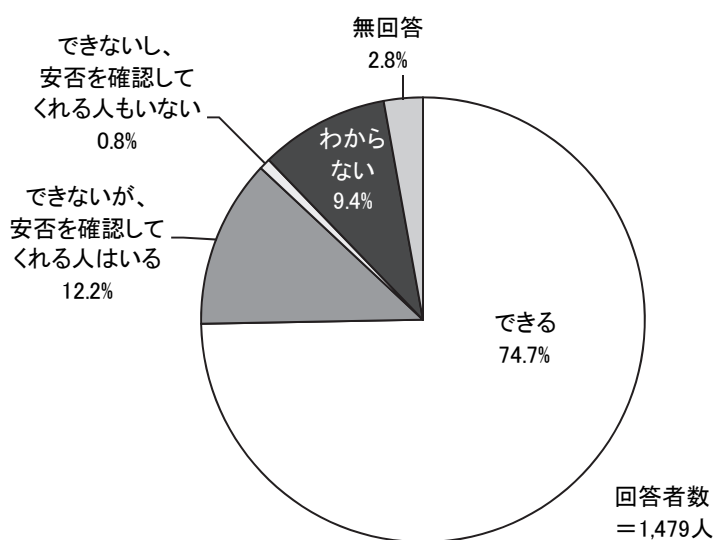
VI 災害時の避難などについて

1 災害時の避難の可否

問 40 災害時(台風や地震等)や火災などの緊急時に、一人で避難することはできますか。(1つに〇)

災害時や火災などの緊急時に一人で避難「できる」と回答した人は、74.7%を占めている。また、「できないが、安否を確認してくれる人はいる」12.2%をあわせると86.9%の人が避難または安否確認ができる状況にあることがわかる。一方、「できないし、安否を確認してくれる人もいない」と回答した人は0.8%となっている。

図表3-81 災害時の避難の可否



家族構成別にみると、ひとり暮らしの人で「できる」と回答した人は71.2%であり、「できないし、安否を確認してくれる人もいない」と回答した人が2.5%となっている。

困ったときに頼れる人の有無別にみると、いない人では「できる」と回答した人は63.5%と他に比べて低く、「できないし、安否を確認してくれる人もいない」と回答した人が7.0%となっている。

図表3-82 災害時の避難の可否

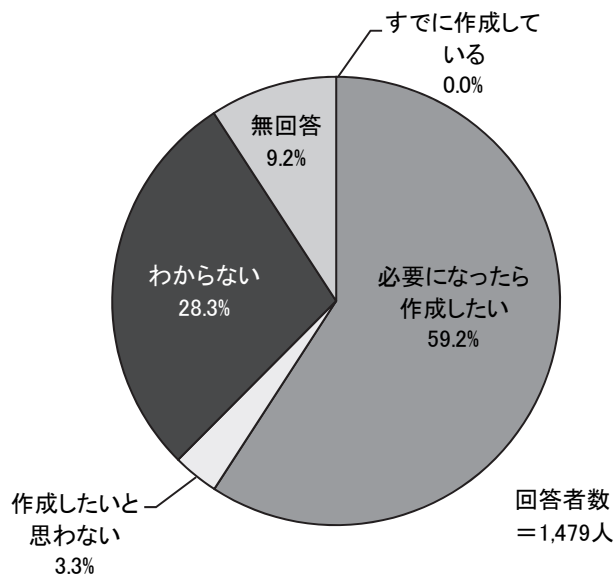
		回答者数(人)	できる	できないが、安否を確認してくれる人はいる	できないし、安否を確認してくれる人もいない	わからない	無回答
全体		1,479	74.7	12.2	0.8	9.4	2.8
家族構成別	ひとり暮らし	403	71.2	10.2	2.5	12.4	3.7
	夫婦のみ世帯 (配偶者は65歳以上)	469	77.4	12.8	0.4	7.7	1.7
	夫婦のみ世帯 (配偶者は64歳以下)	47	93.6	2.1	0.0	4.3	0.0
	世帯全員が65歳以上	34	64.7	11.8	0.0	17.6	5.9
	その他の世帯	484	76.4	13.6	0.0	7.4	2.5
頼れる人の有無別	同居している・近所に住んでいる	877	77.2	13.0	0.0	7.6	2.2
	同居・近所ではないが、行き来できる所にいる	351	76.1	13.7	0.6	7.1	2.6
	いるが、行き来できる所には住んでいない	103	67.0	7.8	1.9	20.4	2.9
	いない	115	63.5	6.1	7.0	17.4	6.1

2 個別支援プランの作成意向

問 41 この個別支援プランを作成したいと思いますか。(1つに○)

個別支援プランの作成意向については、59.2%の人が「必要になったら作成したい」との意向を示している。

図表3-83 個別支援プランの作成意向



災害時の避難の可否別にみると、避難「できる」及び「できないが、安否を確認してくれる人はいる」人では「必要になったら作成したい」と回答した人が6割を占めているが、「できないし、安否を確認してくれる人もいない」人では33.3%であり、「わからない」が66.7%となっている。

図表3-84 個別支援プランの作成意向

		回答者数(人)	すでに作成している	必要になったら作成したい	作成したいと思わない	わからない	無回答
全体		1,479	0.0	59.2	3.3	28.3	9.2
避難の可否別	できる	1105	0.0	63.3	3.9	26.4	6.3
	できないが、安否を確認してくれる人はいる	181	0.0	60.8	2.8	27.6	8.8
	できないし、安否を確認してくれる人もいない	12	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0
	わからない	139	0.0	41.7	0.7	46.8	10.8

Ⅶ 介護保険制度や介護について

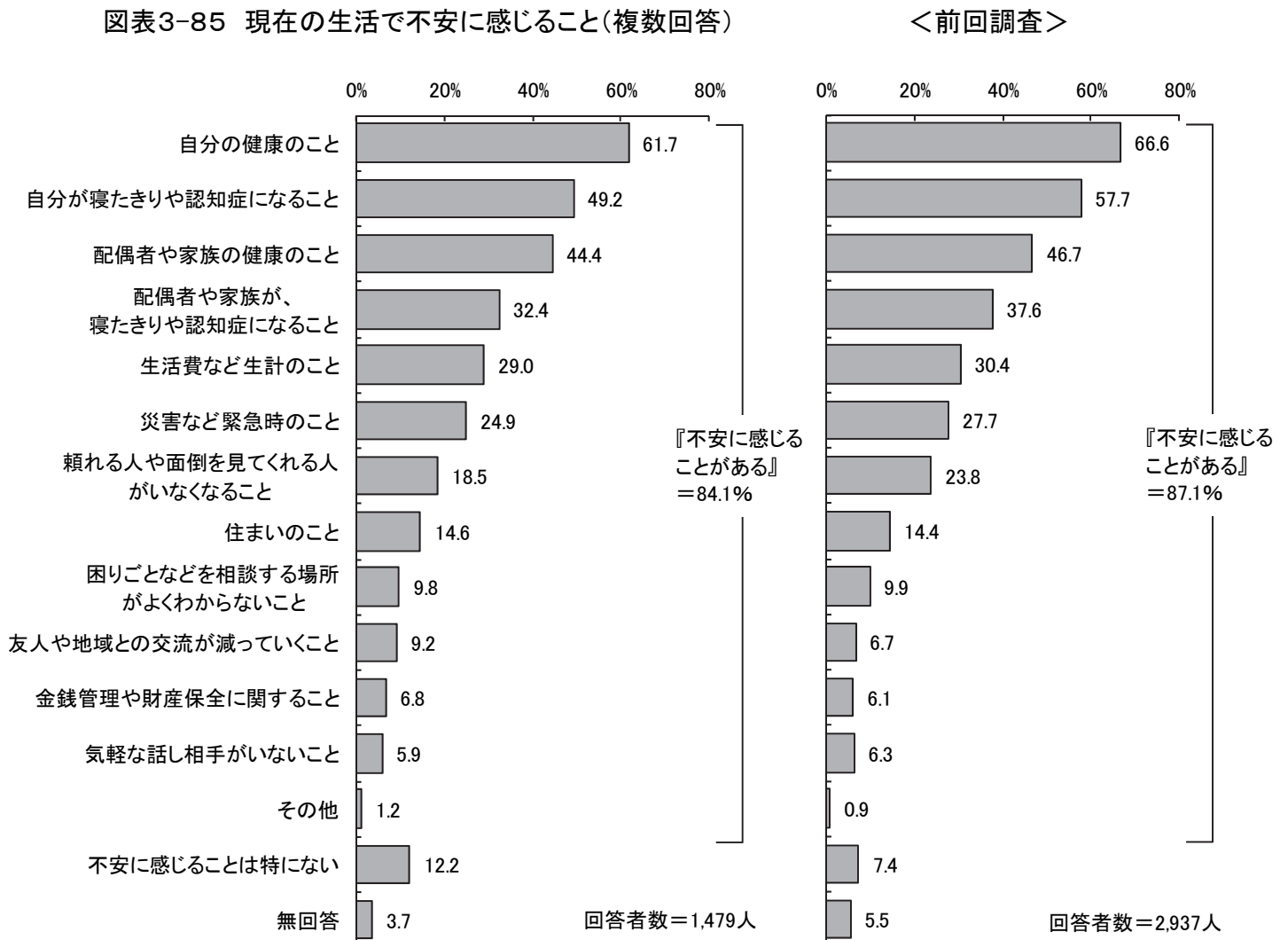
1 現在の生活で不安に感じること

問 42 現在の生活で不安に感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

現在の生活で不安に感じることは、「自分の健康のこと」61.7%、「自分が寝たきりや認知症になること」49.2%、「配偶者や家族の健康のこと」44.4%、「配偶者や家族が、寝たきりや認知症になること」32.4%と、自分や家族の健康や介護が必要な状態になることが上位にあげられている。次いで、「生活費など生計のこと」29.0%、「災害など緊急時のこと」24.9%が続いている。

上位にあげられている項目は前回調査と同様となっている。

図表3-85 現在の生活で不安に感じること(複数回答)



※ 『不安に感じる』 = 100% - 「不安に感じることは特にない」 - 「無回答」

年齢別にみると、年齢層にかかわらず、「自分の健康のこと」、「自分が寝たきりや認知症になること」、「配偶者や家族の健康のこと」が不安に感じることの上位3項目となっている。また、75～79歳は、現在の生活で“不安に感じることもある”と回答した人がもっとも高くなっている。

図表3-86 現在の生活で不安に感じること

		回答者数(人)	自分の健康のこと	自分が寝たきりや認知症になること	配偶者や家族の健康のこと	配偶者や家族が、寝たきりや認知症になること	生活費など生計のこと	災害など緊急時のこと	頼れる人や面倒を見てくれる人がいなくなる事	住まいのこと
全体		1,479	61.7	49.2	44.4	32.4	29.0	24.9	18.5	14.6
年齢別	65～69歳	430	60.7	48.8	43.5	31.6	34.9	23.3	15.1	16.5
	70～74歳	412	59.2	46.8	45.9	35.0	27.9	23.1	16.5	13.6
	75～79歳	335	68.7	54.0	44.5	34.3	29.9	29.9	25.7	17.6
	80～84歳	184	62.0	46.7	41.8	28.8	18.5	21.7	19.6	10.9
	85歳以上	97	53.6	50.5	47.4	25.8	24.7	28.9	16.5	8.2

		回答者数(人)	困りごとなどを相談する場所がよくわからないこと	友人や地域との交流が減っていること	金銭管理や財産保全に関すること	気軽な話し相手がいなくて	その他	不安に感じることは特にな	無回答	『不安に感じることもある』
全体		1,479	9.8	9.2	6.8	5.9	1.2	12.2	3.7	84.1
年齢別	65～69歳	430	8.6	8.6	6.0	5.3	0.9	10.9	2.1	87.0
	70～74歳	412	8.3	7.0	5.1	4.6	0.7	15.0	4.1	80.9
	75～79歳	335	14.9	10.7	10.1	8.7	0.9	9.0	3.3	87.7
	80～84歳	184	8.2	11.4	6.0	6.0	3.8	15.2	4.3	80.5
	85歳以上	97	6.2	11.3	5.2	6.2	1.0	10.3	6.2	83.5

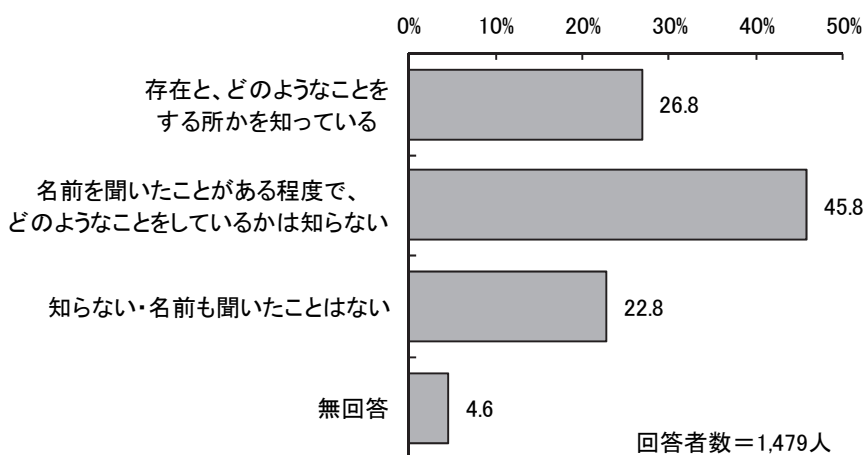
※ 『不安に感じることもある』 = 100% - 「不安に感じることは特にない」 - 「無回答」

2 地域包括支援センターの認知度

問 43 あなたは、地域包括支援センターを知っていますか。(1つに○)

地域包括支援センターの認知度は、「名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない」と回答した人が 45.8%と半数近くを占めている。また、「存在と、どのようなことをする所かを知っている」26.8%、「知らない・名前も聞いたことはない」22.8%となっている。

図表3-87 地域包括支援センターの認知度



図表3-88 地域包括支援センターの認知度

		回答者数(人)	存在と、どのようなことをする所かを知っている	名前を聞いたことがある程度で、どのようなことをしているかは知らない	知らない・名前も聞いたことはない	無回答
全体		1,479	26.8	45.8	22.8	4.6
居住地域別	谷中地区	137	34.3	35.8	27.0	2.9
	台東地区	211	27.5	49.3	19.0	4.3
	蔵前地区	237	24.1	46.0	27.0	3.0
	浅草地区	234	26.5	45.3	23.1	5.1
	三ノ輪地区	203	28.1	49.3	18.2	4.4
	松が谷地区	254	24.8	48.4	22.0	4.7
	清川地区	179	27.4	43.0	22.9	6.7

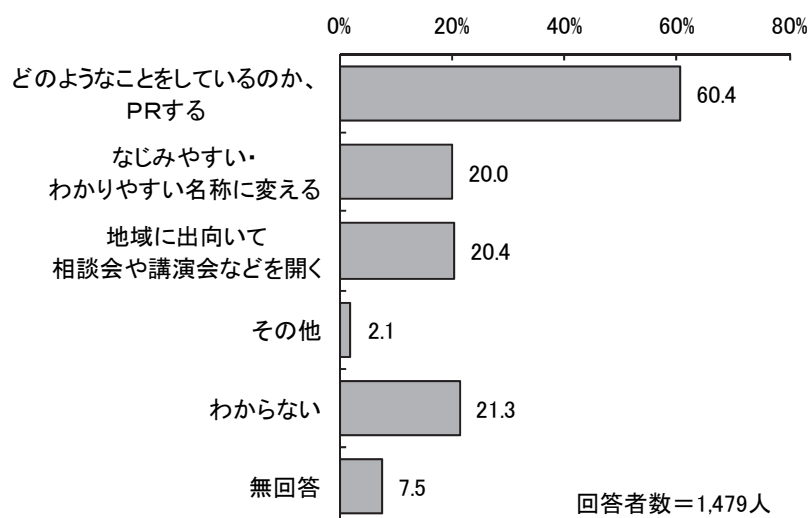
居住地域別にみると、「存在と、どのようなことをする所かを知っている」と回答した人の割合は、谷中地区が 34.3%と最も高く、蔵前地区が 24.1%と最も低くなっている。

3 地域包括支援センターに望む取り組み

問 44 地域包括支援センターをより高齢者の身近な相談機関とするために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

地域包括支援センターに望む取り組みは、「どのようなことをしているのか、PRする」が60.4%ともっとも高くなっている。また、「地域に出向いて相談会や講演会などを開く」20.4%、「なじみやすい・わかりやすい名称に変える」20.0%となっている。

図表3-89 地域包括支援センターに望む取り組み(複数回答)



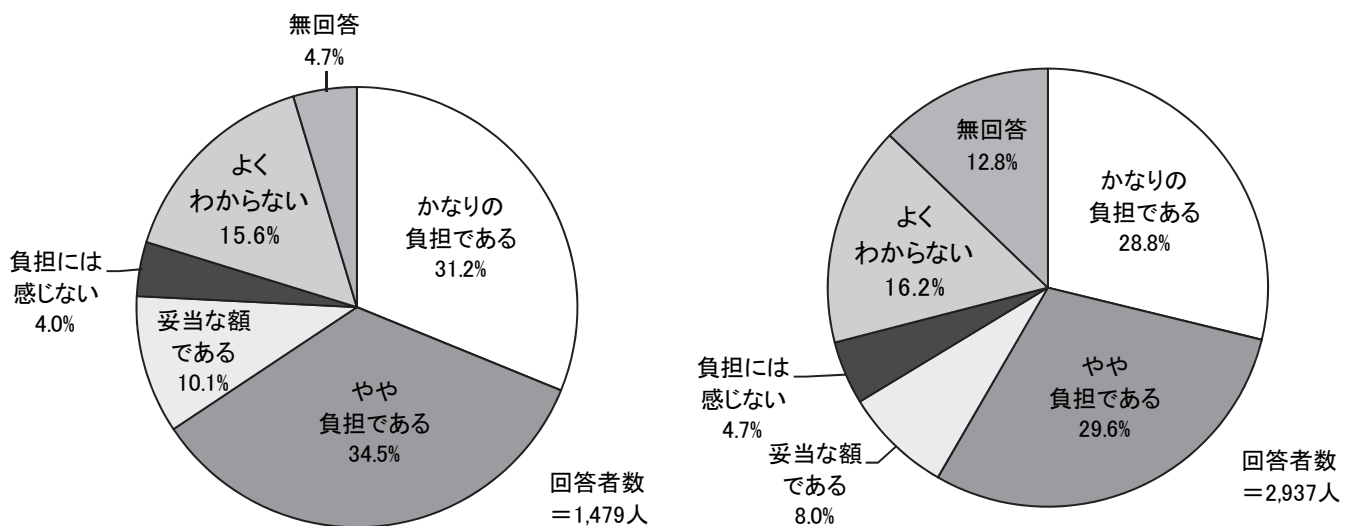
4 介護保険料額の負担感

問 45 あなたは、介護保険料の額をどのように感じていますか。(1つに○)

介護保険料額について、「やや負担である」と回答した人が 34.5%ともっとも高く、次いで「かなりの負担である」が 31.2%となっている。一方、「妥当な額である」10.1%、「負担には感じない」4.0%となっている。

「かなりの負担である」と回答した人の割合は、前回調査よりも 2.4 ポイント、「やや負担である」は 4.9 ポイント高くなっており、「妥当な額である」は 2.1 ポイント高くなっている。

図表3-90 介護保険料額の負担感



暮らし向き別にみると、暮らし向きが苦しい人ほど「かなりの負担である」と回答した人の割合が高く、苦しいと回答した人では 56.2%となっている。一方、ゆとりがあると回答した人では「かなりの負担である」は 16.8%であり、「負担には感じない」が 14.9%となっている。

昨年の年間収入別にみると、80 万未満の人では 41.3%の人が「かなりの負担である」と回答している。

図表3-91 介護保険料額の負担感

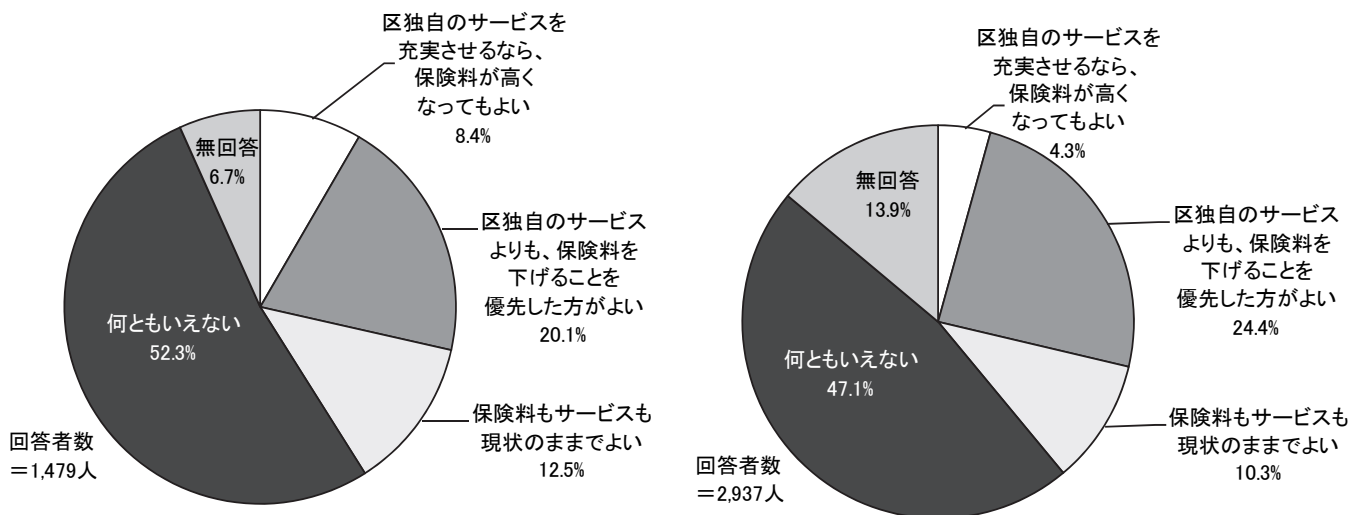
		回答者数(人)	かなりの負担である	やや負担である	妥当な額である	負担には感じない	よくわからない	無回答
全体		1,479	31.2	34.5	10.1	4.0	15.6	4.7
暮らし向き別	ゆとりがある	101	16.8	29.7	14.9	14.9	17.8	5.9
	ややゆとりがある	124	20.2	38.7	17.7	4.8	14.5	4.0
	ふつう	803	25.2	39.0	11.3	3.7	16.4	4.4
	やや苦しい	277	47.3	31.4	3.6	0.7	13.0	4.0
	苦しい	137	56.2	19.0	4.4	0.0	16.8	3.6
昨年の年間収入別	80 万円未満	104	41.3	26.9	5.8	1.9	19.2	4.8
	80 万円～200 万円未満	335	34.0	33.7	9.3	2.4	17.0	3.6
	200 万円～300 万円未満	288	38.5	38.2	8.3	2.1	9.0	3.8
	300 万円～500 万円未満	290	30.7	39.0	12.4	2.4	12.1	3.4
	500 万円～750 万円未満	147	17.7	44.9	13.6	6.1	11.6	6.1
	750 万円～1,000 万円未満	72	22.2	30.6	12.5	9.7	18.1	6.9
	1,000 万円以上	89	22.5	29.2	13.5	13.5	21.3	0.0

5 区独自サービスに対する考え方

問 46 区独自のサービスについて、あなたのお考えをおうかがいします。
(近いもの1つに○)

区独自サービスに対する考え方については、「区独自のサービスよりも、保険料を下げることを優先した方がよい」20.1%、「保険料もサービスも現状のままでよい」12.5%、「区独自のサービスを充実させるなら、保険料が高くなってもよい」8.4%となっている。前回調査と比較すると、「区独自のサービスを充実させるなら、保険料が高くなってもよい」が4.1ポイント高くなり、「区独自のサービスよりも、保険料を下げることを優先したほうがよい」が4.3ポイント低くなっている。

図表3-92 区独自サービスに対する考え方



暮らし向き別にみると、ゆとりのある層ほど「区独自のサービスを充実させるなら、保険料が高くなってもよい」と回答した人の割合が高く、ゆとりのある人では 15.8%となっている。一方、苦しいと回答した人では「区独自のサービスよりも、保険料を下げることを優先した方がよい」が 32.8%と、他に比べて高い割合となっている。

介護保険料の負担感別にみると、かなりの負担であると感じている人では「区独自のサービスよりも、保険料を下げることを優先した方がよい」が 36.9%となっている。一方、負担には感じない人では「区独自のサービスよりも、保険料を下げることを優先した方がよい」は 8.5%であり、23.7%の人が「区独自のサービスを充実させるなら、保険料が高くなってもよい」と回答している。

図表3-93 区独自サービスに対する考え方

		回答者数(人)	区独自のサービスを充実させるなら、保険料が高くなってもよい	区独自のサービスよりも、保険料を下げることを優先した方がよい	区独自のサービスよりも、保険料もサービスも現状のままよい	何ともいえない	無回答
全体		1,479	8.4	20.1	12.5	52.3	6.7
暮らし向き別	ゆとりがある	101	15.8	16.8	13.9	41.6	11.9
	ややゆとりがある	124	12.9	13.7	13.7	55.6	4.0
	ふつう	803	8.7	18.6	14.1	52.8	5.9
	やや苦しい	277	4.3	24.5	10.1	54.9	6.1
	苦しい	137	4.4	32.8	7.3	48.9	6.6
保険料額の負担感別	かなりの負担である	461	5.9	36.9	9.1	44.5	3.7
	やや負担である	510	8.8	17.8	14.5	56.3	2.5
	妥当な額である	150	14.0	4.0	30.7	47.3	4.0
	負担には感じない	59	23.7	8.5	18.6	45.8	3.4
	よくわからない	230	7.0	9.1	4.8	75.2	3.9

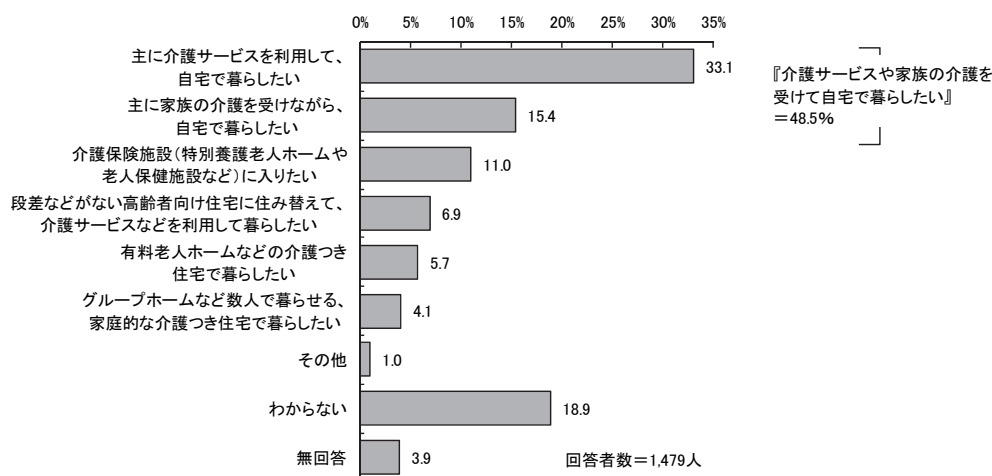
6 今後（介護が必要になった場合）の暮らし方の希望

問 47 今後、あなたに介護が必要となった場合、どのような暮らし方を希望しますか。
(近いもの1つに○)

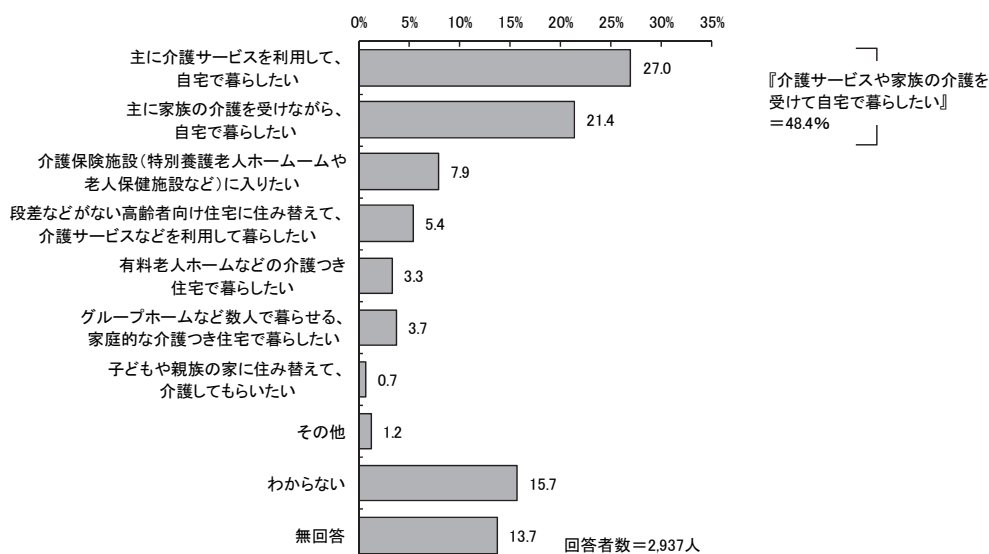
介護が必要になった場合の暮らし方は、「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」と回答した人が 33.1%ともっとも高く、次いで「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」が 15.4%であり、これらをあわせた 48.5%が“介護サービスや家族の介護を受けて自宅で暮らしたい”との意向を示している。

前回調査は選択肢が若干異なるが、「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」の割合が、6.1ポイント高くなり、「主に家族の介護を受けながら自宅で暮らしたい」の割合が、6.0ポイント低くなっている。

図表3-94 今後(介護が必要になった場合)の暮らし方の希望



< 前回調査 >



※ 『介護サービスや家族の介護を受けて自宅で暮らしたい』 = 「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」 + 「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」

年齢別にみると、年齢層が高くなるほど“介護サービスや家族の介護を受けて自宅で暮らしたい”人の割合も高くなっており、85歳以上では58.7%となっている。介護保険施設への入所意向を示した人は全体では11.0%であるが、80～84歳では17.4%と、他に比べて高い割合となっている。

家族構成別にみると、ひとり暮らしの人は「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」に次いで、「介護保険施設（特別養護老人ホームや老人保健施設など）に入りたい」13.6%、「段差などがない高齢者向け住宅に住み替えたい」9.2%となっており、他に比べて施設入所や住宅の住み替え意向が高くなっている。

図表3-95 今後(介護が必要になった場合)の暮らし方の希望

		回答者数(人)	主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい	主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい	介護保険施設(特別養護老人ホームや老人保健施設など)に入りたい	段差などがない高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用して暮らしたい	有料老人ホームなどの介護つき住宅で暮らしたい	グループホームなど数人で暮らせる、家庭的な介護つき住宅で暮らしたい	その他	わからない	無回答	『介護サービスや家族の介護を受けて自宅で暮らしたい』
全体		1,479	33.1	15.4	11.0	6.9	5.7	4.1	1.0	18.9	3.9	48.5
年齢別	65～69歳	430	32.1	12.1	10.5	6.3	7.4	6.5	1.6	20.2	3.3	44.2
	70～74歳	412	31.8	14.6	9.5	8.5	6.3	4.9	1.5	19.9	3.2	46.4
	75～79歳	335	34.9	16.1	10.7	9.6	4.8	3.0	0.3	16.1	4.5	51.0
	80～84歳	184	36.4	16.8	17.4	3.8	4.9	0.5	0.0	15.8	4.3	53.2
	85歳以上	97	30.9	27.8	9.3	0.0	1.0	1.0	1.0	23.7	5.2	58.7
家族構成別	ひとり暮らし	403	30.5	5.0	13.6	9.2	6.0	4.7	1.2	24.1	5.7	35.5
	夫婦のみ世帯 (配偶者は65歳以上)	469	33.0	19.8	9.0	8.5	7.2	4.3	0.6	15.4	2.1	52.8
	夫婦のみ世帯 (配偶者は64歳以下)	47	31.9	23.4	10.6	0.0	6.4	2.1	0.0	21.3	4.3	55.3
	世帯全員が65歳以上	34	26.5	11.8	23.5	5.9	11.8	5.9	2.9	8.8	2.9	38.3
	その他の世帯	484	37.2	19.4	10.3	3.9	4.1	3.5	1.2	16.9	3.3	56.6

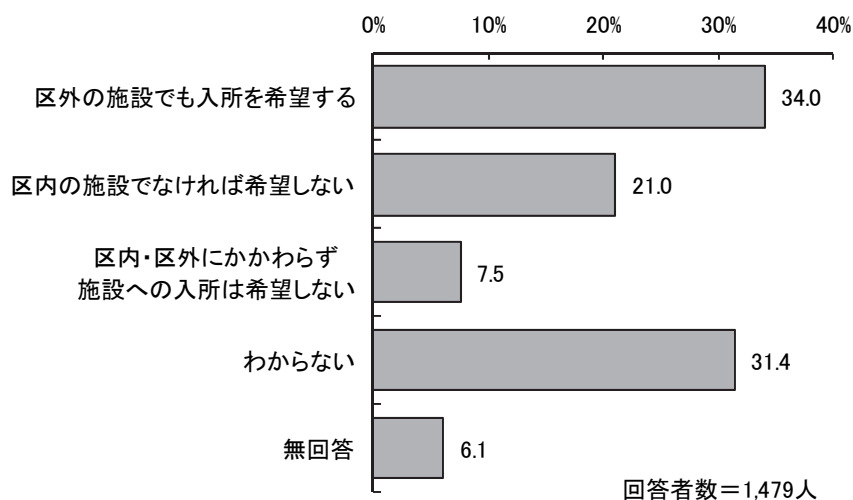
※ 『介護サービスや家族の介護を受けて自宅で暮らしたい』 = 「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」 + 「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」

7 区外施設の入所意向

問 48 もしも介護保険施設(特別養護老人ホームや老人保健施設など)の入所が必要となった場合、区外の施設でも入所を希望しますか。(1つに○)

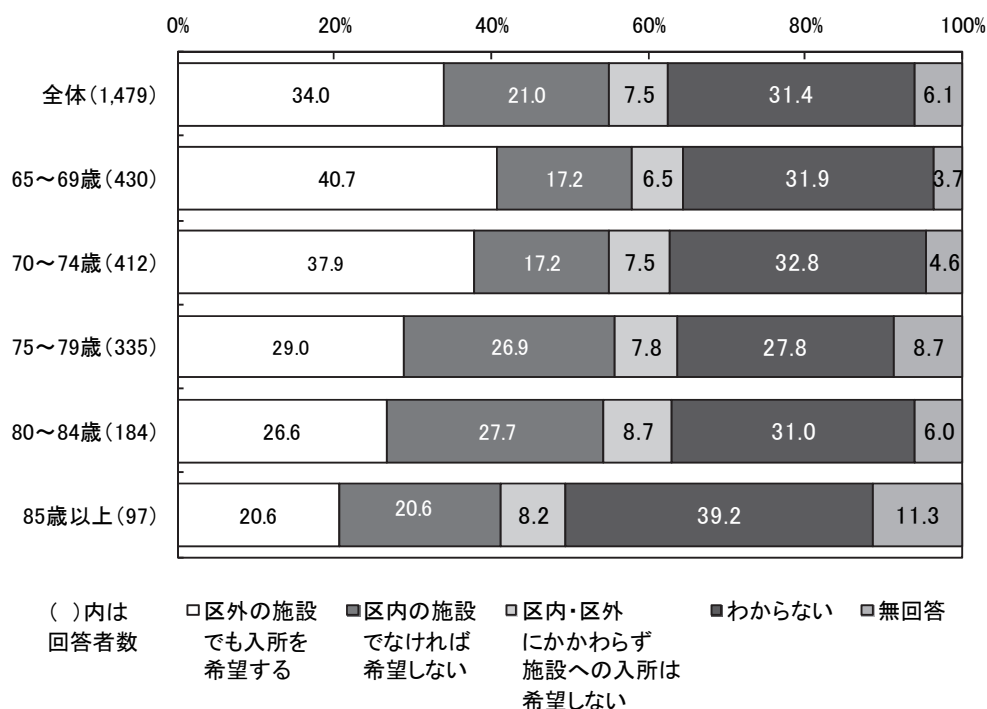
介護保険施設への入所が必要となった場合、「区外の施設でも入所を希望する」と回答した人は 34.0%であり、次いで「区内の施設でなければ希望しない」21.0%、「区内・区外にかかわらず施設への入所は希望しない」7.5%となっている。

図表3-96 区外施設の入所意向



年齢別にみると、年齢層が低いほど区外施設の入所意向が高く、65～69歳では 40.7%となっている。

図表3-97 区外施設の入所意向

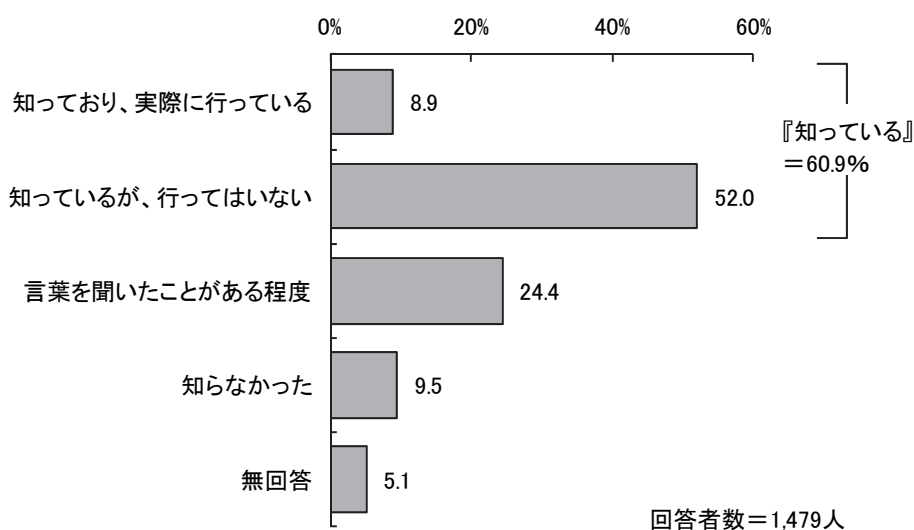


8 終活の認知度

問 49 この「終活(しゅうかつ)」についてご存じですか。(1つに〇)

終活の認知度は、「知っており、実際に行っている」8.9%、「知っているが、行ってはいない」52.0%であり、これらをあわせた60.9%が“知っている”と回答している。また、「言葉を聞いたことがある程度」は24.4%、「知らなかった」は9.5%となっている。

図表3-98 終活の認知度



図表3-99 終活の認知度

		回答者数(人)	知っており、実際に行っている	知っているが、行ってはいない	言葉を聞いたことがある程度	知らなかった	無回答	『知っている』
全体		1,479	8.9	52.0	24.4	9.5	5.1	60.9
性別	男性	655	7.3	48.4	26.1	12.5	5.6	55.7
	女性	798	10.5	55.5	22.7	7.0	4.3	66.0
年齢別	65～69歳	430	7.0	54.7	25.3	8.6	4.4	61.7
	70～74歳	412	7.3	53.9	24.8	10.7	3.4	61.2
	75～79歳	335	9.9	49.9	24.5	10.1	5.7	59.8
	80～84歳	184	14.1	50.0	23.9	6.0	6.0	64.1
	85歳以上	97	12.4	45.4	19.6	13.4	9.3	57.8

性別にみると、“知っている”と回答した人は、男性55.7%、女性66.0%と、女性のほうが高くなっている。

年齢別にみると、「知っており、実際に行っている」と回答した人の割合は、年齢層が高い層に高く、80～84歳では14.1%の人が実際に行っていると回答している

※ 『知っている』=「知っており、実際に行っている」
+ 「知っているが、行っていない」

Ⅷ 区の保健福祉サービスについて

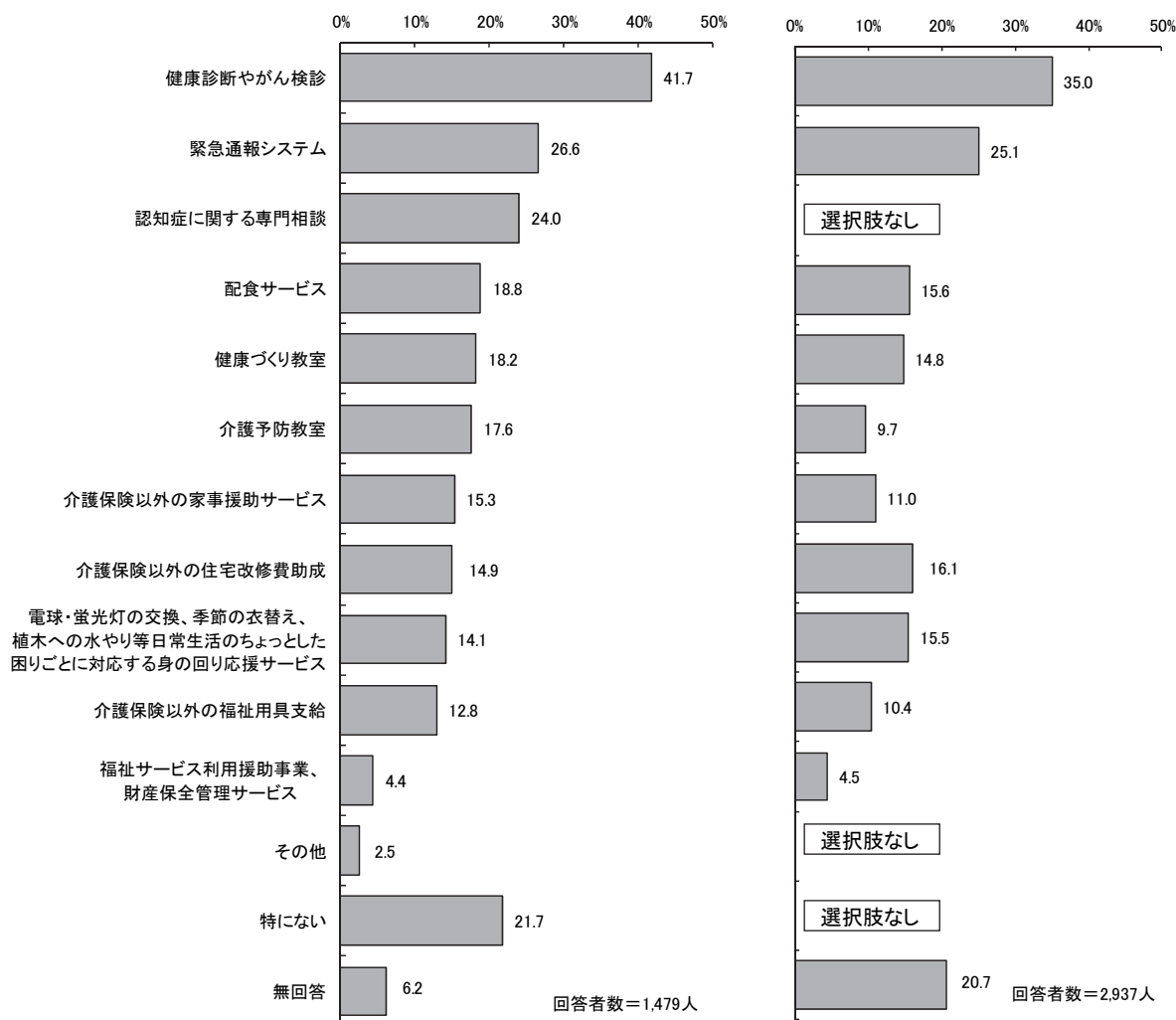
1 区の保健福祉サービスの利用意向

問 50 区などが実施している保健福祉サービスで、今後利用したい(続けたい)ものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

区の保健福祉サービスの利用意向は、「健康診断やがん検診」が41.7%ともっとも高く、次いで「緊急通報システム」26.6%、「認知症に関する専門相談」24.0%となっている。

前回調査と比較すると、「健康診断やがん検診」が6.7ポイント、「介護予防教室」が7.9ポイント高くなっている。

図表3-100 区の保健福祉サービスの利用意向(複数回答) <前回調査>

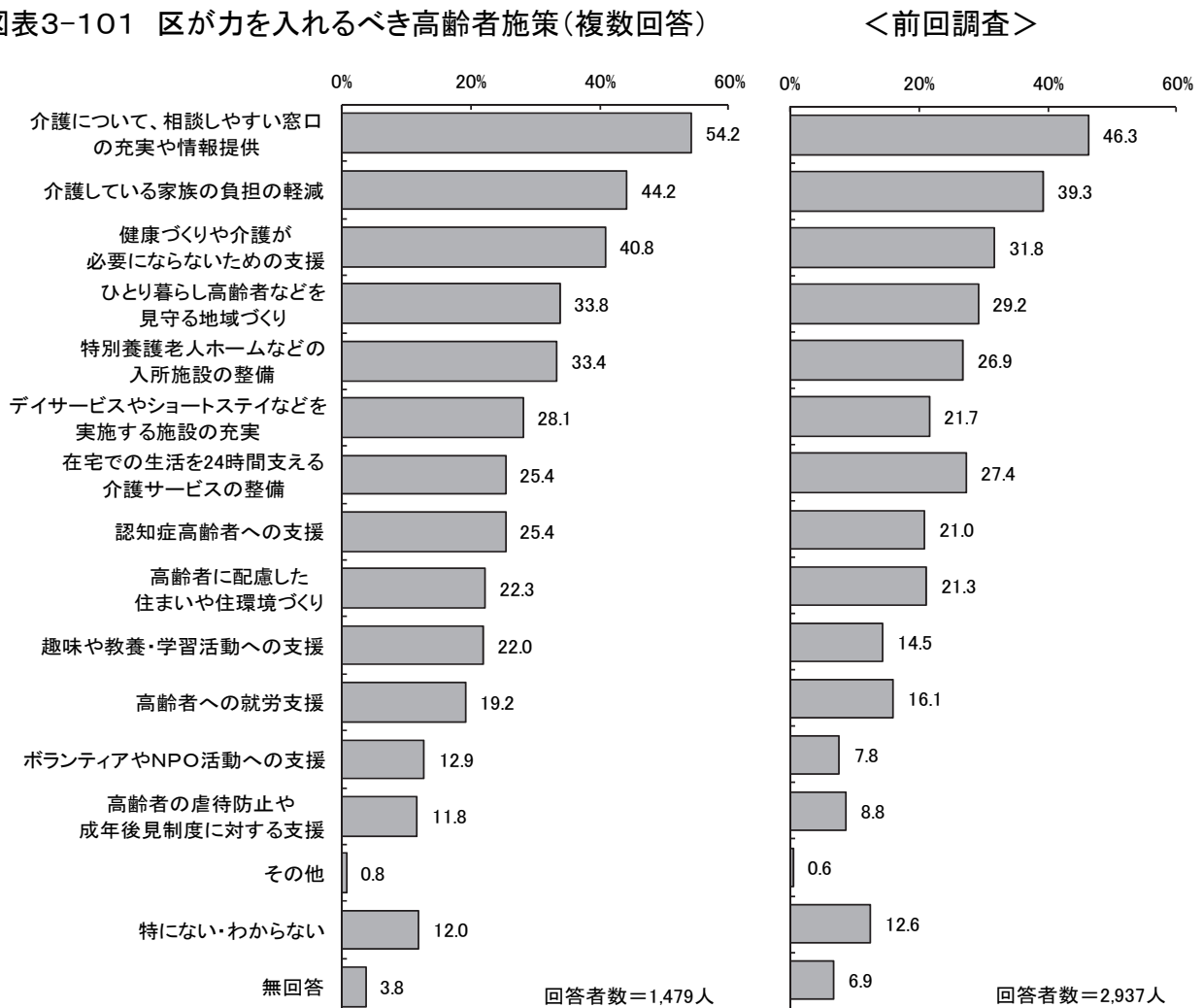


2 区が力を入れるべき高齢者施策

問 51 これからの高齢者福祉施策として、区が力を入れていくべきことは、次のうちどれだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

区が力を入れるべき高齢者施策の第1位は、「介護について、相談しやすい窓口の充実や情報提供」54.2%であり、次いで「介護している家族の負担の軽減」44.2%、「健康づくりや介護が必要にならないための支援」40.8%、「ひとり暮らし高齢者などを見守る地域づくり」33.8%となっており、この上位4項目は、前回調査も同様である。第5位は、前回調査では「在宅での生活を24時間支える介護サービスの整備」であったが、今回調査では「特別養護老人ホームなどの入所施設の整備」であり、施設整備意向が在宅サービスの整備意向を上回っている。

図表3-101 区が力を入れるべき高齢者施策(複数回答)



Ⅸ 自由回答

問 52 高齢者福祉・介護保険制度・健康などに関して、区への要望や意見がありましたら、下の欄にご記入ください。

区への要望や意見は 332 件であり、主な内容は、「高齢者福祉サービス・介護保険サービスについて」54 件、「介護保険制度について」43 件、「健康づくり・介護予防について」39 件となっている。

■ 高齢者福祉サービス・介護保険サービスについて

- ・ 閉校した学校等を、高齢者と児童が利用できる施設にしてもよいのではないか。
- ・ 新設の特別養護老人ホームを増やして欲しい。若者の雇用と職場の確保ができ、就活に役立つと思う。
- ・ 施設に入所しなければならなくなったときに、期間を待たずに入所できるようにして欲しい。
- ・ 介護する側が急病等になった時、すぐにショートステイに預けたい。
- ・ 自宅にお風呂がないため、週 3 回老人福祉館での入浴サービスを利用させていただいている。大変感謝している。

■ 介護保険制度について

- ・ 介護保険制度の仕組みが複雑であり、利用範囲の制限が細かい。納付する保険料に対して、サービスが簡単に受けられるように見直しを考えて欲しい。
- ・ 実際に制度があっても、活用しようとする使用させない規則等が多い。1 つぐらい該当しなくても、利用できるようにすべきだと思う。
- ・ 健常の高齢者に、介護及び介護保険制度に対して区の係わり等 PR も含めて、定期的に説明会を開催して欲しい。

■ 健康づくり・介護予防について

- ・ 健康を保つために、日頃から気をつけ努力して、なるべく医者にかからないようにしている人に何か褒美があるといいと思う。
- ・ 定期的な血圧、検尿、血液検査（少なくとも年 4 回）を無料で受けられる制度をお願いしたい。また、予防や早期発見のため、健診項目を充実して欲しい。
- ・ 認知症にならないように健康に生き続けられる内容が載っている記事等を、月 1 回くらい発行して 70 歳以上の家庭に送ってもらえると助かる。
- ・ 高齢にならないうちに寝たきり、認知症予防につながる運動・知識を学べる時間と場所を増やして欲しい。

■ 地域包括支援センター・相談について

- ・ 地域包括支援センターとは、どのような事を行っているところなのか、説明のパンフレットが欲しい。
- ・ 区役所と町会が一緒になり、高齢者へ気配りする事が一番良い相談だと思う。年若い、区役所まで相談に行くのは勇気がいると思う。
- ・ 現在介護の必要はないが、今後のために相談しやすい窓口を期待する。

■ 就労支援・社会参加について

- ・ 元気な高齢者の方々が活動できるボランティア、就労支援をPRして欲しい。意欲のある元気な高齢者を社会の弱者としないように区は活用すべきだと思う。
- ・ 学校などの空教室を利用して、高齢者の方々が地域で気軽に、誘い合って立ち寄れる場を作って欲しい。
- ・ 老人クラブに指導者の派遣ができれば、クラブも活発になり素晴らしい生きがいになって元気な高齢者も増えると思う。指導者を増やして魅力あるクラブにしたい。

■ 住居、道路・公園等のまちづくりについて

- ・ 収入が少ない高齢者のために安く住むことができる場所を作ってもらいたい。
- ・ 外出の際、安心して歩道、公園内を歩けるよう、自転車の通行方法を厳しく管理して欲しい。また、自転車道路に駐車したり、物を置いたりして、皆が歩行者通路を通行することが多く非常に危険。表示・管理により、徹底指導をして欲しい。

■ 災害などの備えについて

- ・ 大きな災害に備えて、医療機関との連携を整備し、住民にわかりやすく知らせて欲しい。また、高齢者、障害者の避難の仕組みが町会にもわかるようにして欲しい。

■ その他

- ・ ひとり暮らしの高齢者が増えると思うので、ひとり暮らしになる前にいろいろな不安を解消するような講習、お年寄りにわかるようなお話等を心掛けて欲しい。
- ・ 自分を年寄りだと思わせない、高齢者ではなくもっといい呼称があるといいと思う。
- ・ 広報等を読んでいるが、区が何をしているのかわからない事が多い。
- ・ 高齢者へのワンストップサービスが必要。そして窓口には、わかりやすく大きな文字で窓口名、電話番号、必要事項等をまとめたものがあると良いと思う。
- ・ 一律ではなく、地域の現状に見合った施策を希望する。